

第2部 「目標とする姿」への取組み状況

■取組み状況について

「目標とする姿」一つひとつについて、2024年度を含む「主な指標の変化」(2010年度～)と2024年度の特徴的なトピックスを掲載し、現時点での取組み状況の評価を行っています。

【評価方法】

「よくがんばりました」……▲より○が3つ以上多い

「この調子でがんばろう」…▲より○が1～2つ多い

「もっとがんばろう」……○と▲が同数、または▲が多い

■目標とする姿（第3章）

- | | | |
|--|-----|----|
| ① 手入れの行き届いた豊かな森が、きれいな空気や水を育んでいます | ・・・ | 7 |
| ② 里山が様々に利用され、関わる人が増えています | ・・・ | 12 |
| ③ 使われていない農地の利用が進み、生きものの豊かな田んぼが増えています | ・・・ | 15 |
| ④ あちこちの川や海辺で、子どもたちの楽しむ声がきこえてきます | ・・・ | 19 |
| ⑤ コウノトリも住める豊かな生態系が、バランス良く保たれています | ・・・ | 23 |
| ⑥ 様々な世代の人々が、地域の祭りや行事を楽しみ、未来へとつなげています | ・・・ | 26 |
| ⑦ 子どもたちが、身近な地域の自然についてよく知り、大切にしています | ・・・ | 29 |
| ⑧ 市民みんなが、ごみの減量化を実践し、
1人あたりの排出量が徐々に減っています | ・・・ | 32 |
| ⑨ 市民みんなが、楽しみながら省エネ行動を実践し、
再生可能エネルギーの利用も増えています | ・・・ | 35 |
| ⑩ 環境をよくすることで経済が活性化され、交流も広がっています | ・・・ | 38 |

■取組みの方向

- 1 森林を利用し、保全します
- 2 川や海などの水辺環境を保全します
- 3 様々な生きものが育む豊かな農地を保全します
- 4 農林水産業の新たな担い手を育成します
- 5 生きものがバランス良く生息する自然環境を保全します
- 6 公害や災害を防ぎ住みよい環境を守ります
- 7 地域の文化や景観を保全し、活用します
- 8 地域コミュニティ組織を中心に、地域力を高めます
- 9 環境意識を高める学習・教育を進めます
- 10 環境に関する知を集積し、活かします
- 11 ごみの減量・再資源化を進めます
- 12 省エネルギーに努め、再生可能エネルギーの利用を増やし、地球温暖化防止に努めます
- 13 地産地消を進めます
- 14 環境と経済の共鳴を進めます

目標像①

手入れの行き届いた豊かな森が、きれいな空気や水を育んでいます

【主な取組みの方向】

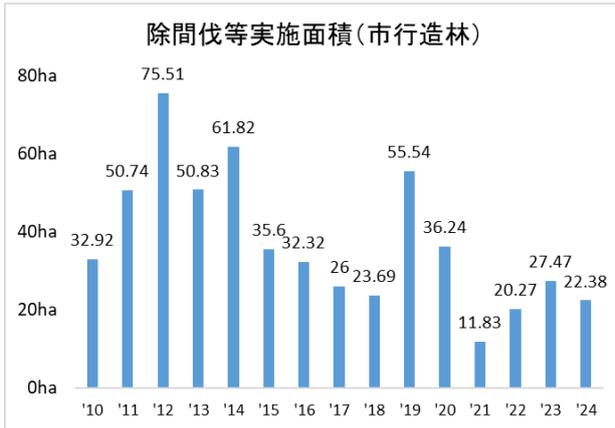
(1) (4) (5) (6) (9)

【具体イメージ】

スギやヒノキの林は保育され、広葉樹も植えられています／木材の利用が増えています／ペレットストーブなどの利用が家庭や事業所に広がっています

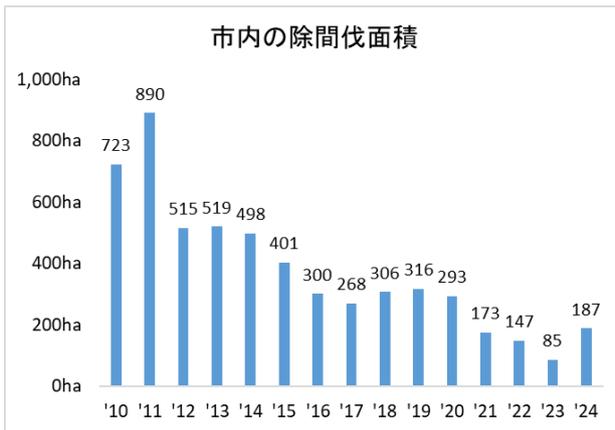
I 主な指標の変化(2010~2024年度)

(I) 除間伐と植樹



・下草の生えた豊かな森林を育てるため、太陽の光が木の根元や地面まで十分に届く環境をつくる「除間伐」を行っています。

・「林業の担い手不足」が、間伐面積減少理由の一つに挙げられます。



・豊岡市、ひょうご農林機構、民間すべての分収造林を含みます。

【分収造林】

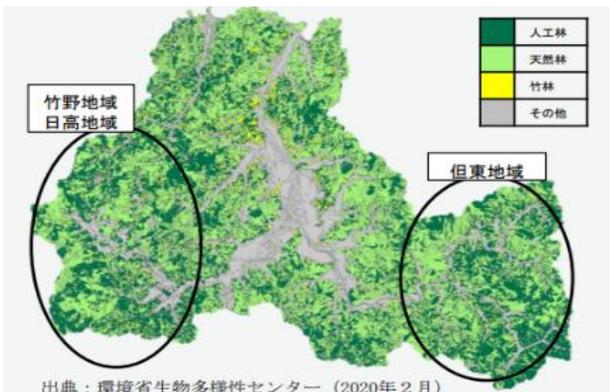
造林者と土地所有者が異なり、両者が造林による収益を分け合う契約をした山林

※兵庫県では、県の外部団体「ひょうご農林機構」が実施する分収造林事業の長期収支や県財政負担への影響分析を行い、それらを踏まえた今後の実施方針等を議論するに当たり、分収造林事業のあり方検討委員会が設置されました。ひょうご農林機構による分収造林事業は、実質的に破綻状態にあることから、早期の対応が不可欠であり、債務整理の実施が不可避となっています。現地調査や所有者・関係者への説明と意見聴取が進められて、県民負担の軽減と森林管理の両面から事業の見直しが行われています。

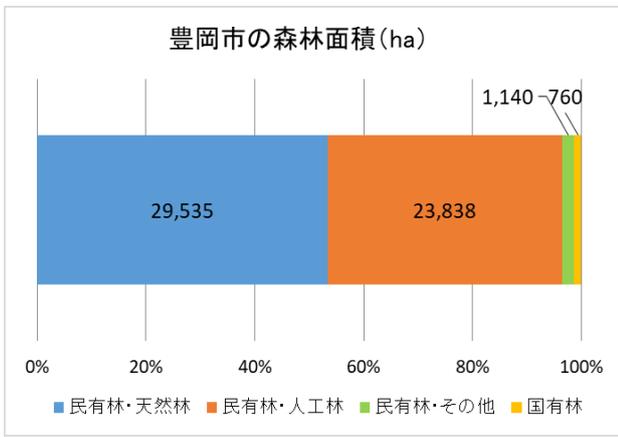
(参考)

市内の分収林の状況 契約件数173件、面積3,808ha (兵庫県HPより)

豊岡市における植生分布図



・豊岡市の面積の8割を森林が占め、人工林の大部分であるスギ、ヒノキの植林は31%であり、竹野地域、日高地域、但東地域に多く分布しています。天然林のうち多くを占めるコナラ二次林は24%となっています。針葉樹と広葉樹が交じり合った“針広混交林”を整備することは、災害に強く生物多様性に富んだ森林に繋がります。

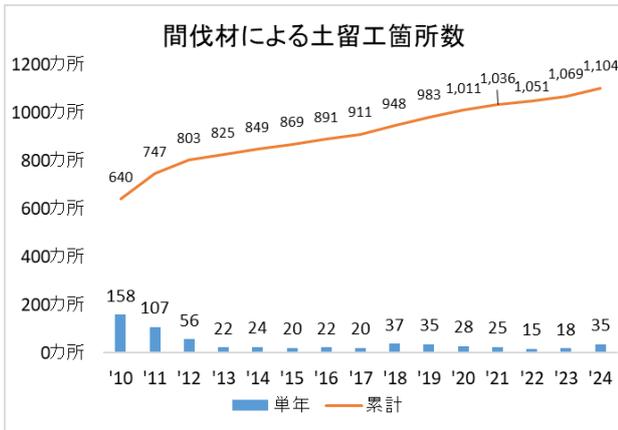


・豊岡市では、針葉樹に加え、シカの食害に強いとされるウリハダカエデやミツマタ、急峻な地形でも生育可能なケヤキ等の広葉樹種が一部で植樹されています。

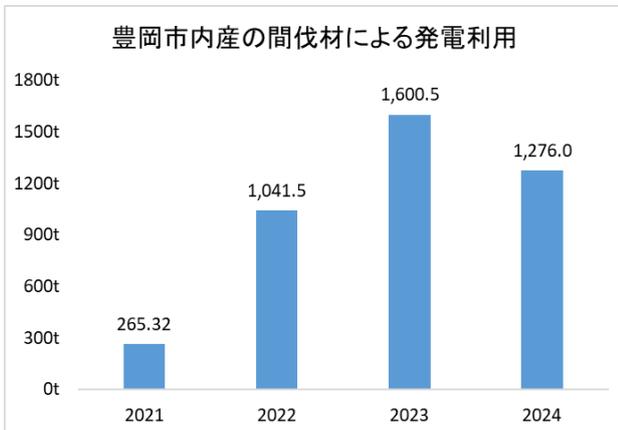
・豊岡市の森林面積のうち、約9割が民有林となっています。その内、コナラ林などの天然林が約50%、スギ・ヒノキ林などの針葉樹林が約40%となっています。

【出典：兵庫県林業統計書(2025.3月発行)】

(2) 間伐材の利用

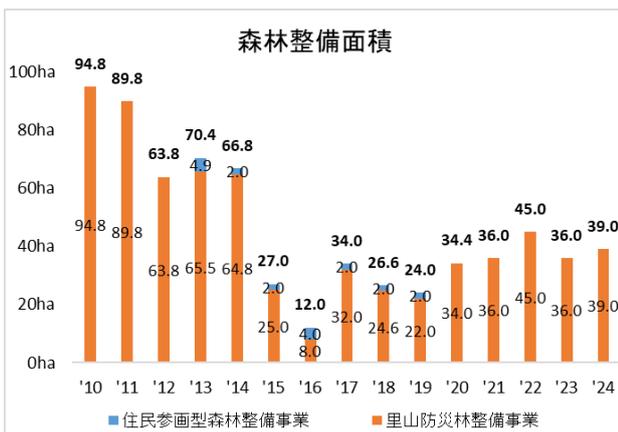


・間伐材をそのまま地滑り防止に活用する「土留工」を行っています。



・豊岡市内産の間伐材をチップ化し、県内外(丹波市、赤穂市、鳥取市)の企業へ発電用材として提供しています。

(3) 森林の整備

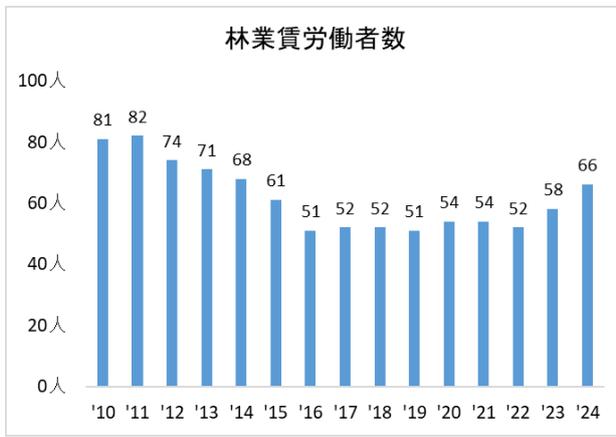


・住民参加型森林整備事業は、竹林、枯れ松、危険木伐採等により、集落の安全を確保する1カ年事業です。

(事業主体：兵庫県、実施主体：区、地域)

・里山防災林整備事業は、人家裏山の凹型斜面の崩壊、崩落を防ぐため、危険木伐採や簡易防災施設(丸太柵工等)整備を行います。2カ年事業で、1年目に調査、2年目に整備します。

(事業主体：兵庫県、実施主体：林業事業者)



・林業就業人口は、2023、2024年と増えてい
ます。

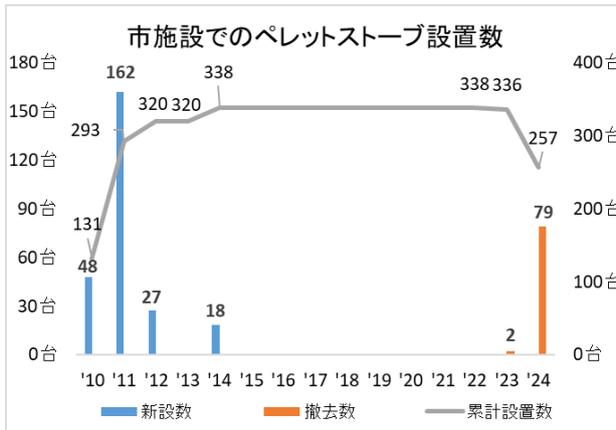
【出典：兵庫県林業統計書（2025年3月）】

※1年度遅れでの発行となっている。

※林業賃労働者の定義は、年間50日以上現場（森林）で作業された方

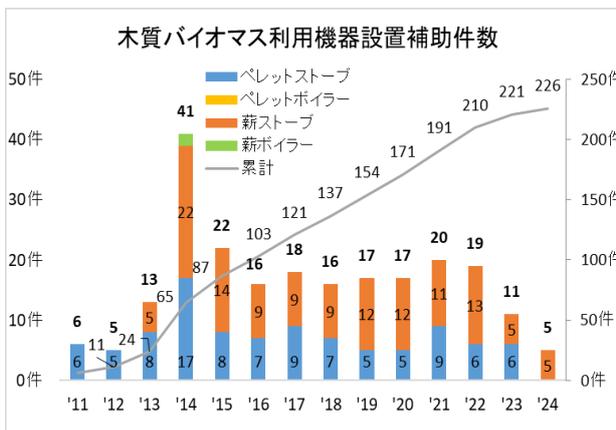
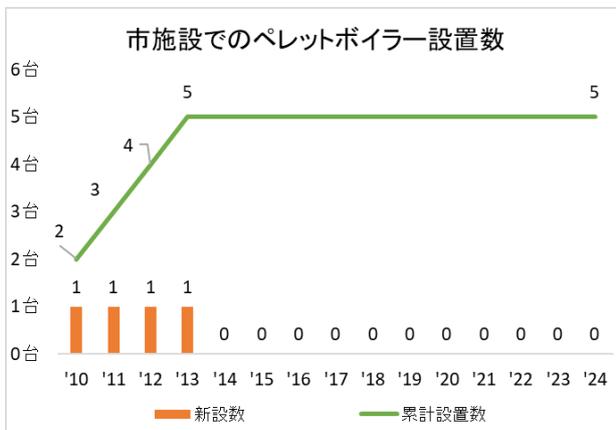
・近年、個人事業主や少人数規模で起業されてい
る事業者があります。

(4) 木質バイオマス機器の利用



・2014年以降、公共施設への木質バイオマス利
用機器の設置は行っていません。

・政策効果が低下し、耐用年数も経過しているペ
レットストーブは計画的に撤去を進めます。今後
の公共施設への木質バイオマス利用機器の設置
については、検討を進めていきます。



・木質バイオマス(薪、木質ペレット)を燃料に利
用するストーブ、ボイラーの利用を進めています。
個人住宅、区の集会所、事業所を対象に補助して
います。

・2011年度から補助事業を開始し、これまでに
累計226件の申請があり機器の設置が進んでい
ます。※撤去数は把握していません。

(5) 森林環境譲与税の使途

温室効果ガス排出削減目標の達成や災害防止などを図るため、森林整備等に必要な地方財源を安定的に確保する観点から、2019年4月に森林環境税および森林環境譲与税が創設されました。森林環境税は、2024年度から個人住民税に上乗せして1人あたり1,000円が徴収されています。

森林環境譲与税は、森林環境税を財源に私有林の面積や林業就業者数などに応じて市町村に配分され、森林整備や人材育成・担い手の確保、木材利用の促進や普及啓発などの費用に充てるとされています。

豊岡市は、森林・林業の多様な課題に対応し、森林の持つ多面的機能を発揮していくため「豊岡市森林・林業ビジョン」に基づき、森林環境譲与税を活用した戦略的な森林整備およびその促進に関する事業を展開しています。



・2023年度は、雪害倒木に起因して一定規模の停電が発生した地域における送配電施設周辺の危険木伐採に要する費用に対する雪害倒木緊急対策事業補助を行いました。また、森林整備の重要度が高い但東町坂津エリアにおいて、森林所有者との協定に基づき間伐を行う森林整備業務を行いました。

・2024年度は、森林の適切な管理を進めるため、造林事業などによる間伐作業の選木・伐倒経費や作業道の開設に係る経費に対する補助や、区などが実施する小規模な森林整備や危険木伐採に要する費用に対し補助を行いました。

Topics

雪害倒木による停電防止に向けた危険木伐採

未整備森林の増加により降雪での倒木に起因する停電が多発していることから、一定規模の停電が発生している地域に影響する送配電施設沿線の森林で行う危険木伐採に必要な費用を支援しています。



○対象樹木

森林法(昭和26年法律第249号)第2条第1項に規定する森林のうち、森林管理に関する契約、協定及び覚書等を締結していない森林内にある樹木で、次に掲げるものを対象としています。

- (1) 送配電施設より概ね20m以内の範囲の樹木
- (2) 胸高直径が10cm以上の樹木(倒木及び竹は除く)
- (3) 森林所有者の伐採同意を得た樹木

2 2024年度評価

- 林業就業人口が増えている。
- 森林・林業ビジョンの策定により持続可能で豊かな森林づくりに向けた里山防災林整備事業など具体的な取組みが推進されている。
- 豊岡市産の間伐材が「発電用材」として供給・利用されている。
- ▲森林環境譲与税が森林整備に計画的に利用され、適切な森林整備および環境の維持が図られているが、森林の荒廃は食い止められていない。

この調子で
がんばろう

目標像②

里山が様々に利用され、関わる人が増えています

【主な取組みの方向】

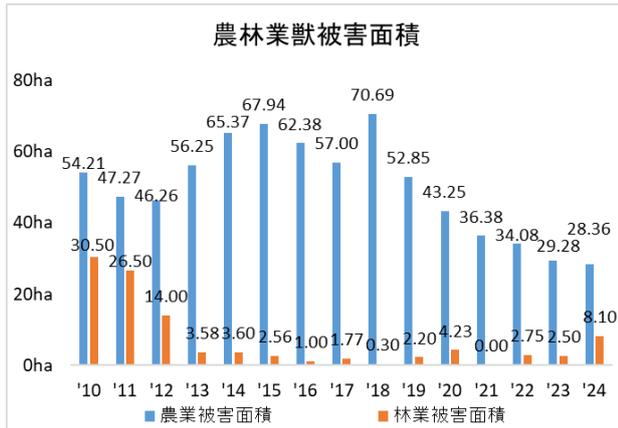
(1) (3) (4) (5) (9)
(13)

【具体イメージ】

安心して散策を楽しめる里山が増えています／食用の山菜やキノコの知識をもった市民が増えています／森林ツーリズムなどを楽しむために森に入る人が増えています／イノシシやシカは適切に駆除され、肉や皮も多様に活用されています

I 主な指標の変化(2010～2024年度)

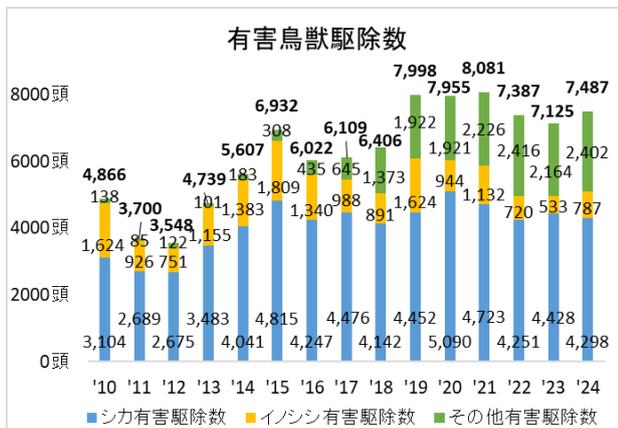
(I) 有害鳥獣対策



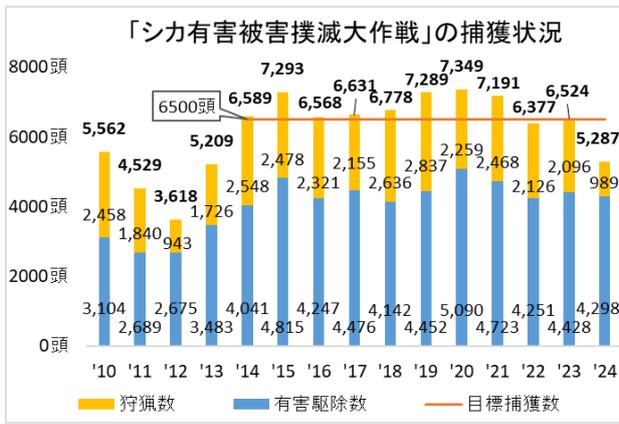
- ・継続した有害鳥獣駆除の取組みの成果が表れ農業被害の面積は前年度に比べ減少し、被害額は微増となっています
- ・山奥から人里近くに被害が広がってきています。
- ・被害面積及び被害額は、農業者アンケートを基に作成しているため、家庭菜園等の被害は含まれません。



- ・林業被害のほとんどはシカによるもので稚樹の食害が問題となっています。
- ・2021年度ゼロであった有害鳥獣による林業被害は2022年度以降、再度発生しており、2024年度の林業被害は、面積・額ともに前年度の約3.5倍となっています。
- ・国定公園においてもシカの被害は深刻であり、農林業だけでなく山林にも被害が出ており森林生態系に影響を与えています。



- ・シカやイノシシ、その他の有害鳥獣の駆除を進めることによって、生息数の減少を図っています。
- ・野生動物の移動に伴い、ヤマビルやマダニの生息域が拡大しており、今後健康被害が増加していくことが懸念されています。
- ・「有害鳥獣駆除数」グラフは、有害鳥獣駆除のみの数値で、11月から3月までの狩猟期に個人が捕獲したものは含まれていません。
- ・「その他有害駆除数」には、タヌキやアライグマ、ヌートリア、カワウ、サルなどが含まれます。



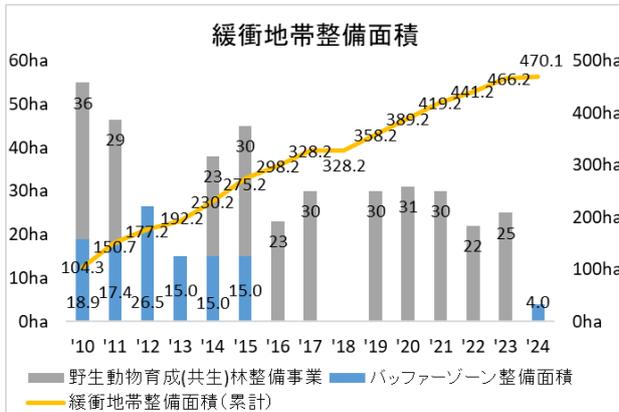
・兵庫県が策定する「ニホンジカ管理計画」に基づき、豊岡市では、2014年から年間捕獲数6,500頭を目標に、「シカ有害被害撲滅大作戦」を実施しています。

・2024年度のシカ捕獲頭数は、5,287頭となり、年間の捕獲目標6,500頭を下回る結果となりました。その要因としては、10年以上継続して取り組んできた捕獲圧の強化によって、市内でのシカの生息数が減少傾向にあることに加え、冬期の大雪によって狩猟機会が大幅に減少したことにありと推測しています。

・鳥獣保護管理法に基づき、捕獲物等は原則として持ち帰ることとし、やむを得ない場合に限り生態系に影響を与えないような適切な方法で埋設することとしています。

※「狩猟数」は、狩猟期(11～3月)に個人が捕獲した頭数です。

※「有害駆除数」は、一般、専任班、捕獲実施隊(市鳥獣害対策員と市担当で編成)が、有害獣として捕獲、駆除した頭数です。

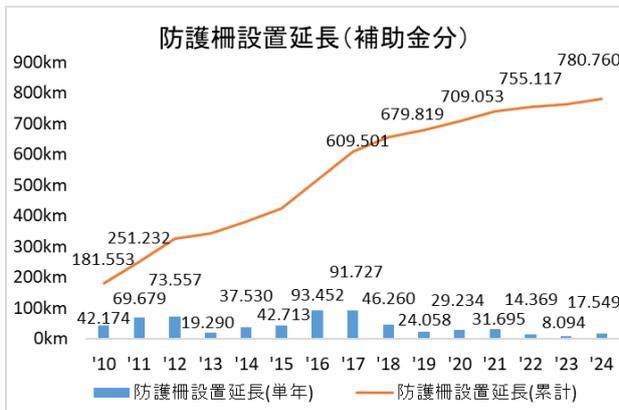


・緩衝地帯(バッファゾーン)とは、野生動物との住み分けを図るため設けられる、幅約20mの見通しの良い地帯を言います。

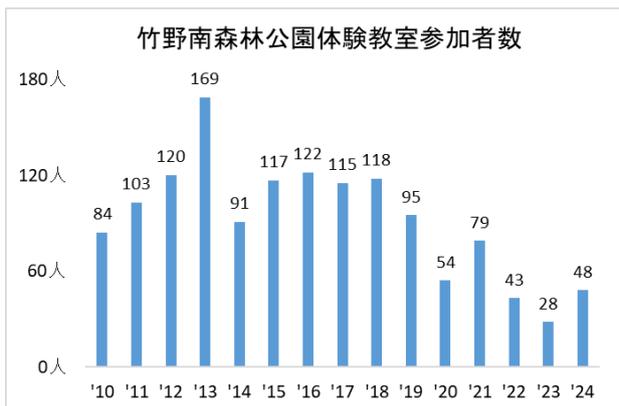
・バッファゾーン整備事業は2009～2015年度、2024年度から実施(事業主体：豊岡市)。

・野生動物育成(共生)林整備事業は、緩衝地帯と集落防護柵を一体整備する2カ年事業で、1年目に調査、2年目に整備します(事業主体：兵庫県)。

・2018年度は調査だけのため実績がありません。



(2) 森林公園の利用



・竹野南森林公園では、毎年季節に合わせた体験教室を実施しています。

・2024年度は3回事業を実施しました。

<事業内容>

しいたけのほだ木づくり

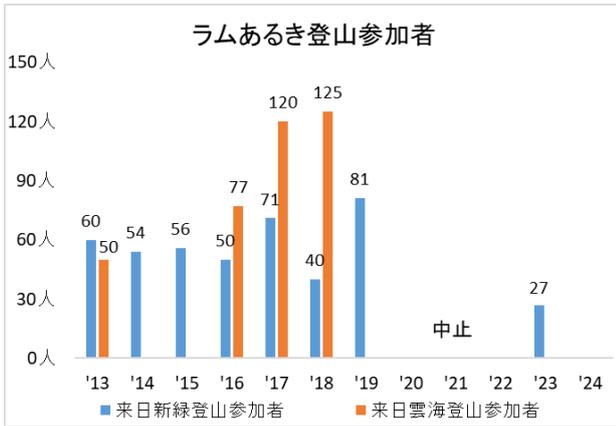
里山で遊ぼう

(里山ブランコ、ターザンロープ等で遊ぼう)

里山の芋ほり体験

(さつまいも、里芋、落花生の収穫体験)

(3) 森林ツーリズム



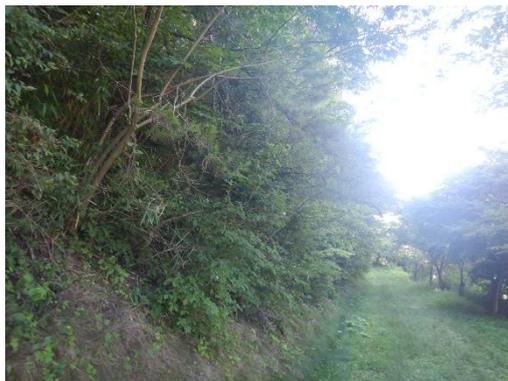
・2012年に「円山川下流域・周辺水田」がラムサール条約に登録された翌年から、来日山の山頂からラムサール条約湿地を眺めるイベント「ラムあるき登山」を、5月と10月に地元主催で実施されてきました。

・新型コロナウイルス感染症の影響で事業を中止していましたが、その後、クマ出没のため開催が見送られました。上記の理由による中止や実施者の高齢化等により体制が整わず実施が困難になっています。

Topics

獣害を軽減する緩衝帯森林整備事業

里山の適正な管理を促し、近年頻発する農作物等への獣害を軽減し、野生動物との共生や森林環境保全に資することを目的として、行政区などが実施する森林への緩衝帯（バッファゾーン）整備を支援しています。



整備前



整備後

○対象森林

- ・野生動物による農作物等への被害が発生している地域の農地や住宅等に隣接する森林
- ・林縁から山頂方向に概ね30m以内の森林
- ・兵庫県が実施する野生動物共生林整備(災害に強い森づくり事業)のうち、バッファゾーン整備の対象にならない0.3ha以上3ha以下の森林

2 2024年度評価

▲林業獣被害は面積、被害額ともに増加している。

○新たに獣害対策緩衝帯森林整備事業が始まり、獣害を軽減するための緩衝帯（バッファゾーン）整備が行われた。

▲有害鳥獣の生息範囲拡大に伴い、クマの出没が増え、安心して散策できない里山が増えている。

もっと
がんばろう

目標像③

使われていない農地の利用が進み、生きものの豊かな田んぼが増えています

【主な取組みの方向】

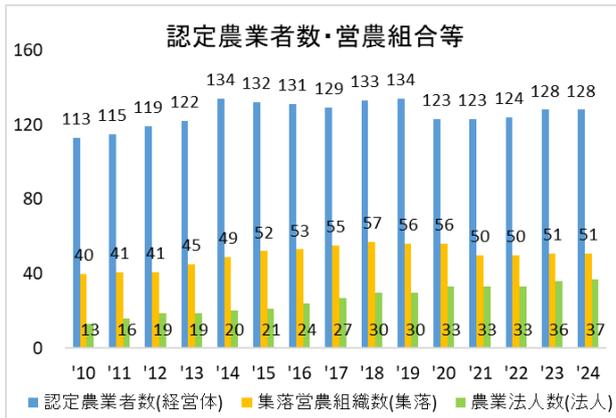
(3) (4) (5) (9) (10)
(13) (14)

【具体イメージ】

農薬や化学肥料に頼らない農業が広がっています／就農する若い人が増えています／学校や家庭の食卓に豊岡でとれた安全安心な食材が並んでいます／多様な生きものと触れ合う子どもの姿をよく見かけます／ビオトープ水田など様々な使われ方で農地が活かされています

I 主な指標の変化(2010~2024年度)

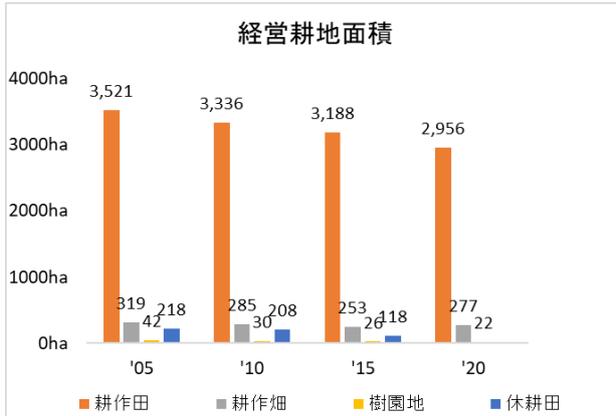
(1) 豊岡の農業の現状



・就農者の高齢化や減少が進む中で大規模集約化の方向にあります。

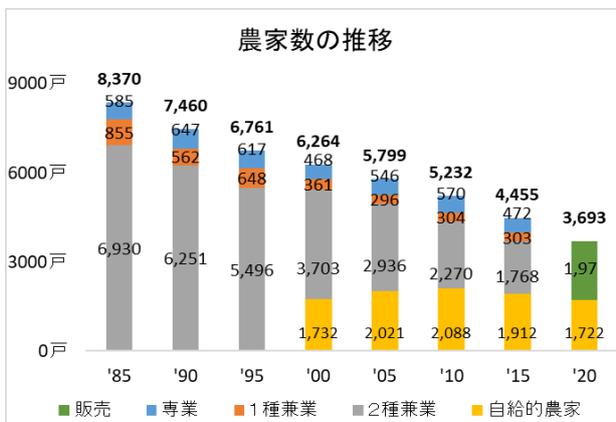
【認定農業者】

農業経営改善計画を市町村に提出し、認定を受けた農業経営者・農業生産法人



【経営耕地面積】

農家が経営する耕地の面積
2020年から集計方法が変更。経営耕地のある経営体の数と経営耕地面積を把握（休耕地面積は把握せず）



・2000年以降の専業、兼業農家は「販売農家」に限られ、自給的農家の専業別調査が簡素化されました。

・2020年から集計方法の変更に伴い、専業、兼業別の把握が廃止となり、「販売農家」の枠組みでの把握となります。

・高齢化や担い手不足により農家数が減少していると考えられます。

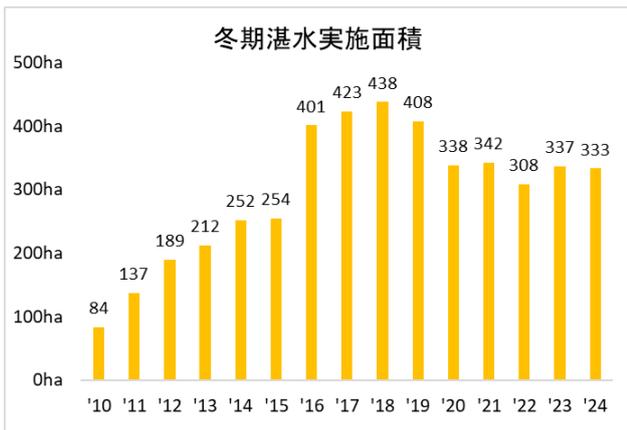
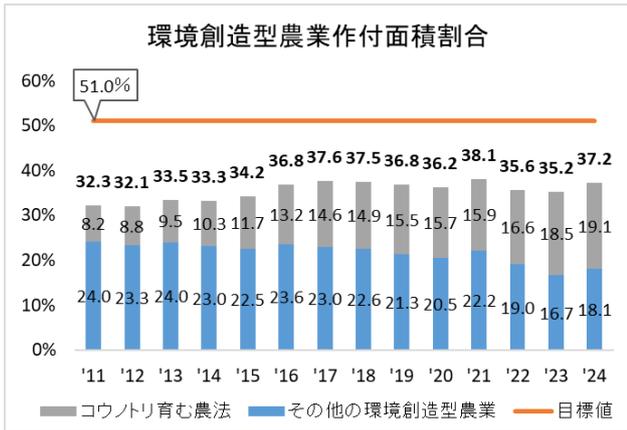
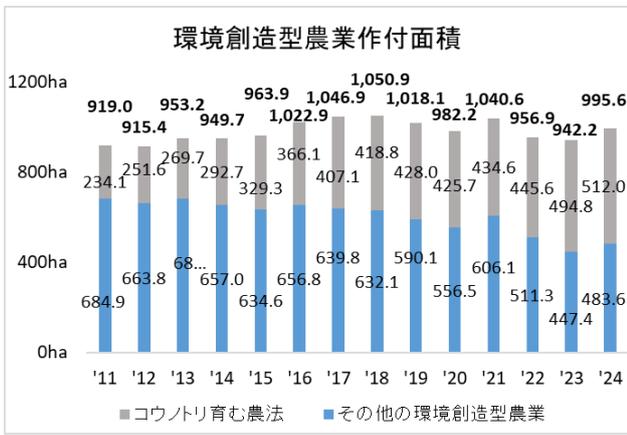
・「経営耕地面積」及び「農家数の推移」は、5年に一度行われる農林業センサスの結果を記載しています。

【第1種兼業農家】 農業所得を主とする兼業農家

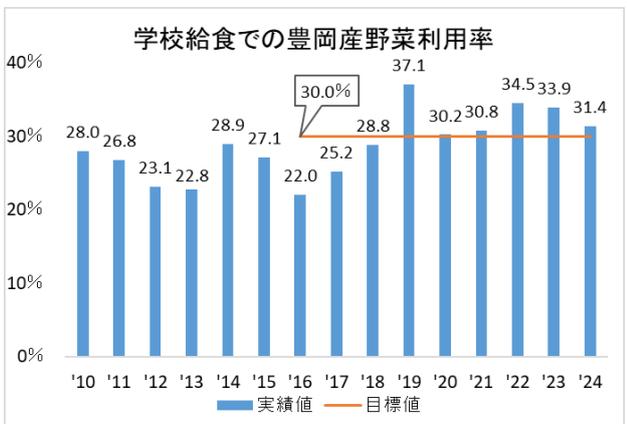
【第2種兼業農家】 農業所得を従とする兼業農家

【販売農家】 経営耕地面積が30a以上または農産物販売金額が50万円以上の農家

【自給的農家】 経営耕地面積が30a未満かつ農産物販売金額が50万円未満の農家



(3) 地産地消



・2016年度から、週5回全ての米飯給食でコウノトリ育むお米(減農薬)を使用しており、2022年度からは無農薬のコウノトリ育むお米の提供が始まりました。2027年度には全量が無農薬米で提供できるよう取組みを進めていきます。

・「コウノトリ育む農法」をシンボルに、新たな栽培方法を導入するなどして、「豊岡型環境創造型農業」〔農薬、化学肥料50%以上減(慣行農法比)〕の普及拡大を図っています。

・水稻の慣行栽培では、薄いプラスチックでコーティングされた被覆肥料(一発肥料)とよばれる肥料が省力化のために広く使われていますが、近年プラスチック殻の水系への流出が問題となっています。

・コウノトリ育む農法等の環境創造型農業では、被覆肥料を使用しないため、生物多様性の向上に加え、環境負荷も軽減されます。

・冬期湛水は、冬にも田んぼに水を張ることです。生きものが豊かになり肥料分を含むトトロ層(2~5cm)ができることで雑草の種子が発芽しにくく、抑草効果もあります。

・2020年度から、冬期湛水実施面積のデータ元である環境保全型農業直接支払交付金の制度変更に伴い、集計方法が変更となったことから、実施面積が減少しました。

・豊岡産野菜は、「国民健康・栄養調査(厚生労働省)」の野菜の定義に則っています。いも類、果実類、きのこ類は含まれません。

・利用率は重量で計算しており、2015年度から「30%以上の利用」を豊岡市独自の目標として設定し、2019年度から6年連続で達成中です。
・地元生産者がピーマンなどを寄付する、児童たちが自分たちで作った野菜を調理して食べるなどの取組みも行われています。

	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
全体量	95.4	94.0	92.4	92.0	78.0	85.0	89.5	85.8	82.0
内、無農薬米	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.0	20.7	29.5

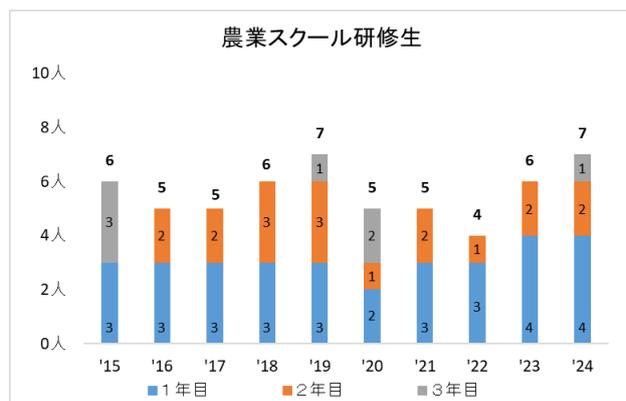
《たじまんま豊岡店の豊岡産物販売額・割合》

年度	2023年度	2024年度
全体販売額(千円)	381,722	384,453
豊岡産物販売額(千円)	314,068	317,582
他産物販売額(千円)	67,654	66,871
豊岡産物販売割合(%)	82.3	82.6

- ・たじまんま豊岡店における豊岡産物販売額(生産者からの委託販売分)割合です。野菜や花、加工品が含まれます。
- ・豊岡産物の販売割合は8割を超えています。

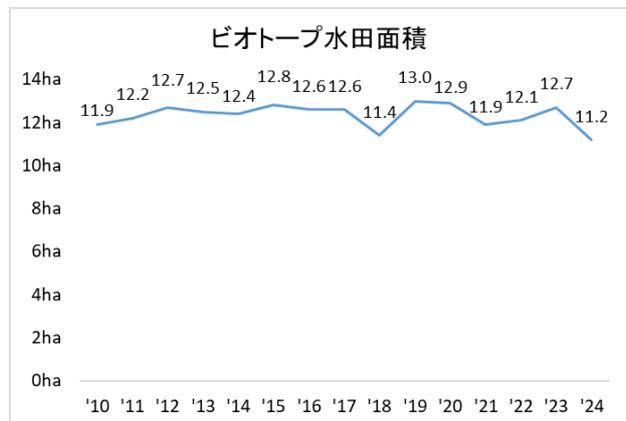
※生産者からの委託販売(農産物、花、加工品)による販売金額

(4) 農業スクール研修生



- ・新規就農希望者が、就農に必要な生産技術と経営能力の習得を目指し、1年間(更新で最長3年間)学びます。
- ・これまでに34人が市内の先進農業者の下で生産や経営の技能を習得し、市内で新規就農(独立27人、雇用7人)し、それぞれが市内各地でコウノトリ育むお米やたじまピーマン、豊岡ぶどうや但馬牛の繁殖等、豊岡を代表する農畜産物の生産に取り組んでいます。

(5) 休耕田の利活用



- ・多様な生きものを育む「ビオトープ(生きものがすむ場所)水田」として農家等が豊岡市と管理委託契約を結んでいます。
- ・管理者の高齢化により減少し始めています。
- ・ビオトープ水田から田んぼに復田することもあります。
- ・小学校区ごとの面積については、目標像⑦(P30)に掲載しています。

みんなで守ろう!地域の農地 「地域計画」の取組み

全国的に高齢化や後継者不足、耕作放棄地の増加などでこれから先の農業の展望が描けない地域が増えてきています。

このような状況のなか、国では農地の集積・集約化による生産性の向上を図る施策を展開するなど、多種多様な方法で今後の農業の在り方を考える転換期に差し掛かってきています。

こうした動向を踏まえ、地域の農業の課題や将来の在り方をまとめた従来の「人・農地プラン」をさらに充実・安定させるために、新たに非農家を巻き込んだ地域内での話し合いにより、将来目指すべき農地利用の姿を明確化した「地域計画」を策定することが義務付けられました。

「地域計画」は農業者や地域のみなさんの話し合いにより策定される将来の農地利用を明確化した設計図で、概ね10年後を見据え、誰がどの農地を耕作するかなどを地域の話し合いによりまとめる計画です。

豊岡市では、2024年度中に87%の集落で地域計画が策定されました。

※「地域計画」は市ホームページで公表しています。→



2 2024年度評価

- 環境創造型農業におけるコウノトリ育む農法の作付面積および割合は増加している。
- 学校給食での地場産物利用率が目標利用率を達成している。
- ▲ビオトープ水田面積が減少している。



目標像④

あちこちの川や海辺で、子どもたちの楽しむ声がきこえてきます

【主な取組みの方向】

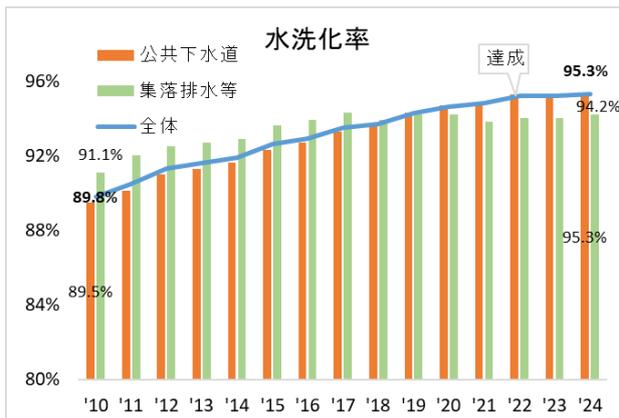
(2) (3) (5) (7) (8)
(9) (11)

【具体イメージ】

市民みんなの協力で川や海がきれいになりました／ポイ捨てをしないという意識が高まり水辺のごみが少なくなっています／水質が改善し、川にはたくさんの魚が泳いでいます／子どもたちが日常的に魚をとったり水辺で遊ぶ姿を見かけています

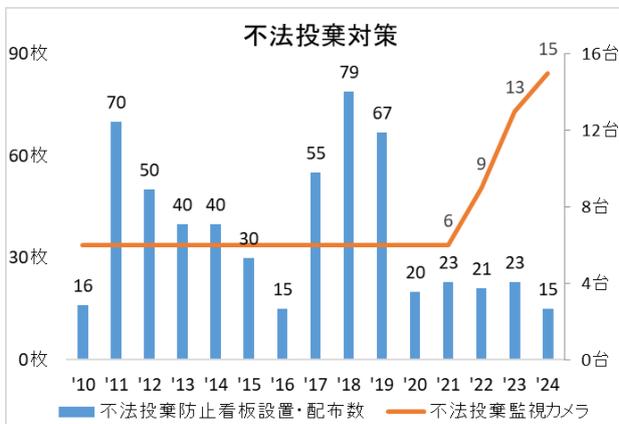
I 主な指標の変化(2010~2024年度)

(1) 川の水質保全



・河川の水質浄化に繋がる「水洗化率」は、95%を目標にしており、公共下水道では2022年度に達成されました。

(2) 不法投棄対策

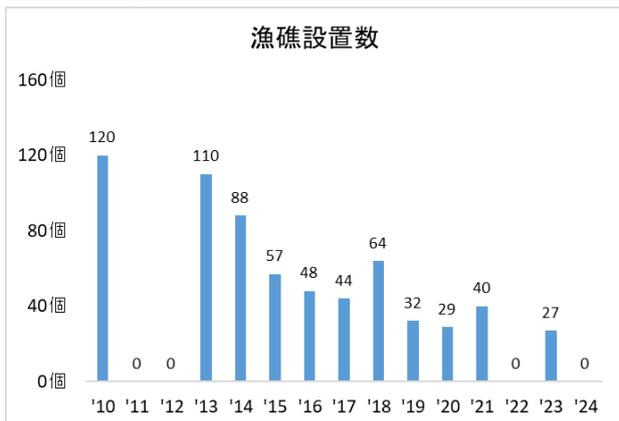


・不法投棄防止看板や監視カメラを河川敷や峠などに設置しています。

・家庭ごみから自転車まで、様々なごみが捨てられています。

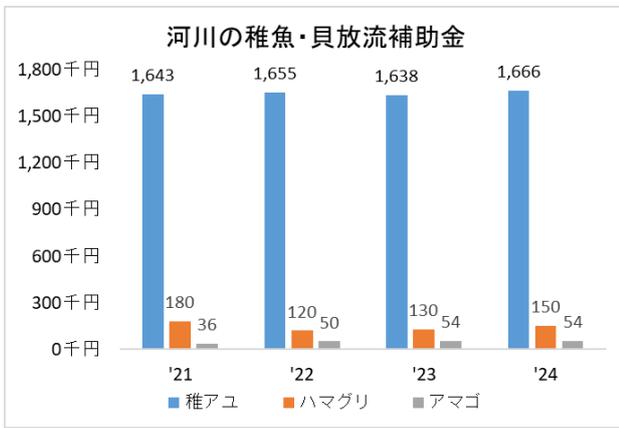
・豊岡市のパトロール班が定期的に巡回しています。

(3) 水産資源保全



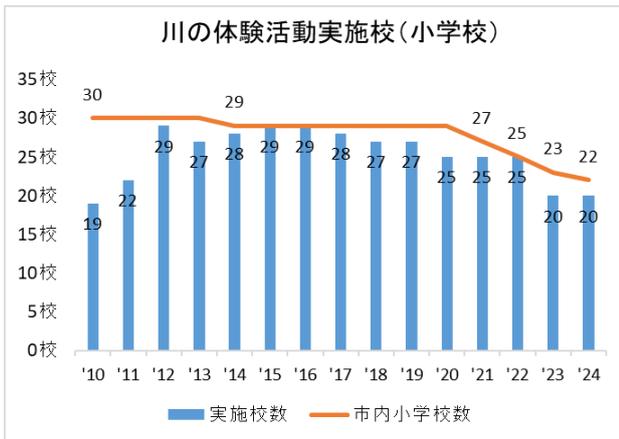
・漁礁は、魚類の繁殖と生活のために人為的に海中など水中に設置される魚類のすみか(巣)や集まる場となるものです。

・2019年度以降の設置数は、漁礁のサイズが大きくなったことにより減少しています。



・豊岡市が、円山川漁業協同組合(アユ、ハマグリ)と竹野川漁業協同組合(アユ、アマゴ)に補助しています。

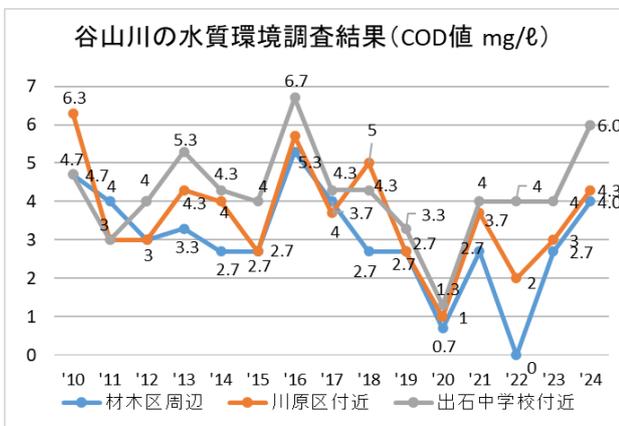
(4) 子どもたちの体験活動等



・2007年度に兵庫県下で「環境体験学習(小学3年生対象)」が導入されたこともあり、授業で自然体験が取り入れられています。

・学校での活動の他、民間団体等も体験活動を実施しています。

※統廃合により市内の小学校数は、減少しています。(～2012年度30校、2013～20年度29校、2021年度27校、2022年度25校、2023年度23校、2024年度22校)



・国土交通省が毎年実施している「身近な水環境の全国一斉調査」に併せ、2007年度から環境ネット出石が子どもたちと一緒に谷山川の水質調査や生きもの調査を実施しています。

・CODとは水中の有機物残存量を示すもので、値が低いほど水質が良いということを示しますが、直前の天候や水量によって数値に影響が出る場合もあります。

(5) 清掃活動

川沿いや海水浴場のある浜などで、地域住民やボランティアなどによる清掃活動が行われています。2024年度も様々な団体により河川、浜清掃が開催されました。次のページで活動例を紹介します。

ボランティアで清掃活動をしてくださる市民や事業者がいることで、海や河川がきれいに保たれています。回収されている方々を頼るだけでなく、すべての人が【ごみを出さない】という努力をすることも求められます。

《浜清掃活動例》

港地区における浜清掃活動

「ふれあいを大切に、地元の浜を自分たちの手できれいにしよう」を合言葉に、園児・児童・生徒・保護者・高年クラブやその他地元の方と一緒に海岸清掃を実施し、ふるさとを大切にする意識を地域と一体となって高めるとともに、河川・海の水質保全を円山川上流域へ啓発を行っています。

1981(昭和56)年から続く活動であり、2024年度は「愛される港の浜 守ろう愛しい浜」を合い言葉に、海開き前の6月22日(日)、港中学校・港小学校・港認定こども園の生徒・児童・園児と保護者、及び地区の高年クラブや地域住民、周辺団体・個人の総数約320名(うち118名が中学生以下)が、気比の浜と田結の浜の清掃活動を実施しました。当日の運営は、児童会・生徒会が中心となり、可燃ごみ340袋、不燃ごみ20袋、その他流木多数を回収しました。



また、活動の趣旨や様子について手作り新聞やポスターを作成し、市内の小中学校・公共施設をはじめ、円山川上流域の養父市や朝来市の小中学校へ河川や海岸の環境保全について訴えました。

港小学校児童会・港中学校生徒会の継続的な活動が、学校だけではなく、港地区全体へと広がっており、地域においても環境美化の推進や、SDGsを意識する風土が広がりつつあります。

Topics

コウノトリKIDSクラブ『谷山川ウォッチング』へ参加

2024年7月21日に出石川で自然体験イベント「谷山川ウォッチング」が開催されました。当日は、コウノトリKIDSクラブメンバー13名を含む59名が参加しました。

このイベントは、出石町を拠点に活動する環境保護団体「環境ネット出石」が主催したもので、出石城下町を流れる谷山川をフィールドに「イカダ下り」、「特定外来生物オオフサモの抜き取り」、「生き物調査」などの活動を通じて、谷山川の自然環境と触れ合うことができるイベントです。

当日は全国トップレベルの猛暑日でしたが、子どもたちは暑さを感じさせないほど元気に無数のオオフサモを抜き取る大変な作業や川遊びに夢中になっていました。

活動の最後には、昼食としてニジマスの塩焼きや、地元産の野菜がたっぷり入ったスープをいただきました。



円山川でアユ産卵場造成事業を行いました

円山川水系では2017年にアユの遡上数が大きく減少したことをきっかけに、2021年度から毎年10月頃に産卵場造成実験を行っています。産卵場造成実験とは、大きな石や砂が堆積する等産卵に不適な状態になっている河床を、じょれん等で耕して浮き石状態にして産卵しやすい河床環境を創出するものです。

10月1日(火)、円山川本川(中郷遊水地)で造成作業を行いました。昨年に引き続き4回目の実施となります。市や国交省職員のほか、円山川漁業協同組合、環境保全団体、市内の建設業者ら約70人が集まり、重機を使って上流側から下流へ向かって河床の10~50センチを耕し、その後、人力で敷き均しを行い大きな礫を除去し、アユが産卵しやすい河床を造成しました。



翌10月2日(水)には、豊岡河川国道事務所主催で同様の実験が出石川で行われました。

※円山川アユの産卵場造成事業後の状況 (単位: m²)

年度	2020	2021	2022	2023	2024
面積	311	1,458	1,827	2,782	3,603

(提供:国土交通省豊岡河川国道事務所)

2 2024年度評価

- 子どもたちの川での体験活動が定着している。
- アユ産卵場造成事業の取組みにより、産卵場は拡大し、川の環境が整備されている。
- ▲不法投棄防止看板や監視カメラの設置など不法投棄対策を行っているが、不法投棄は減っていない。



目標像⑤

コウノトリも住める豊かな生態系が、バランス良く保たれています

【主な取組みの方向】

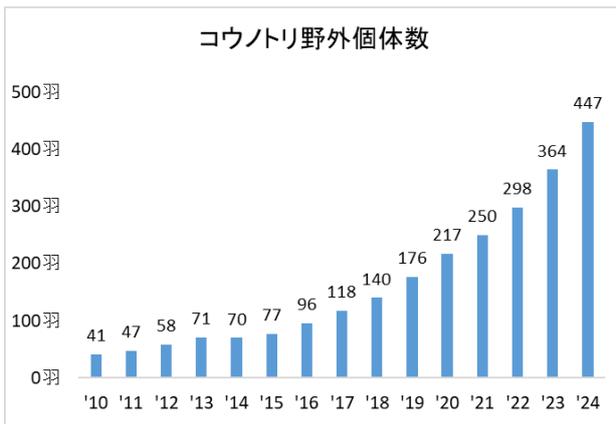
(1) (2) (3) (4) (5)
(7) (8) (9) (10) (14)

【具体イメージ】

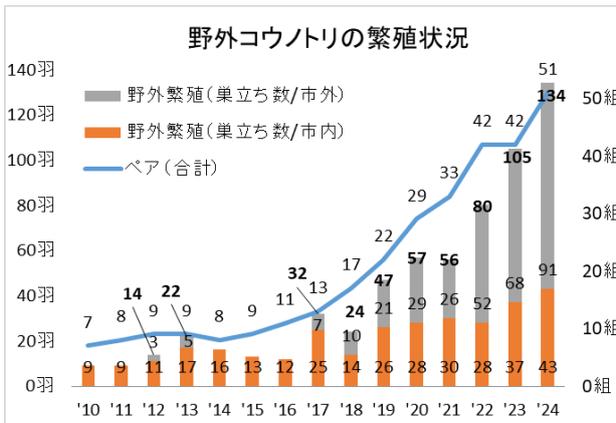
コウノトリ育む農法や市民に守られた湿地が市内全域に広がっています／コウノトリのエサになる生きものが増え、生態系のバランスが保たれています／コウノトリが市内各地に舞い降りています／コウノトリも住める豊かな環境づくりの取組みがさらに進んでいます

I 主な指標の変化(2010～2024年度)

(I) 野外のコウノトリの状況



- ・2005年の試験放鳥から、野外コウノトリの自然繁殖も進み、個体数は順調に増加しています。
- ・野生復帰したコウノトリは、市内だけでなく、全国各地に飛来しています。2017年度には、47都道府県全てでコウノトリの飛来が確認されました。



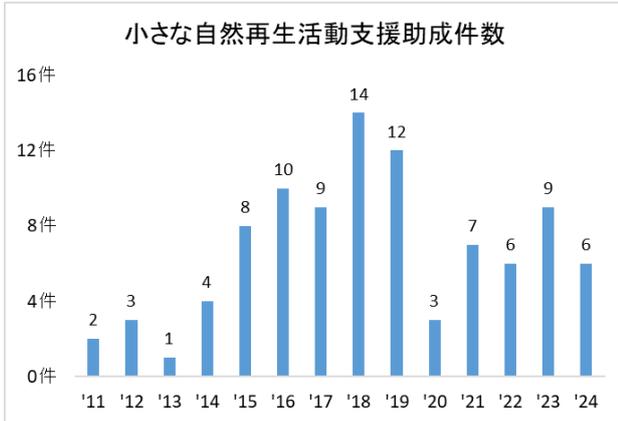
- ・2025年3月時点で、市内では16ペアが繁殖しています。

- ・2024年度の野外繁殖(市外)は、新規営巣した5市町を含め、市外24市町で繁殖しています。
- ・営巣地の内訳は、朝来市、稲美町、淡路市、京都府京丹後市、綾部市、徳島県鳴門市、島根県雲南市、福井県越前市、小浜市、鯖江市、石川県津幡町、志賀町、鳥取県八頭町、広島県世羅町、香川県まんのう町、佐賀県白石町、栃木県小山市、

茨城県神栖市、行方市です。新たな営巣地として、鳥取県大山町、千葉県野田市、新潟県上越市、福井県越前町、茨城県小美玉市が加わりました。

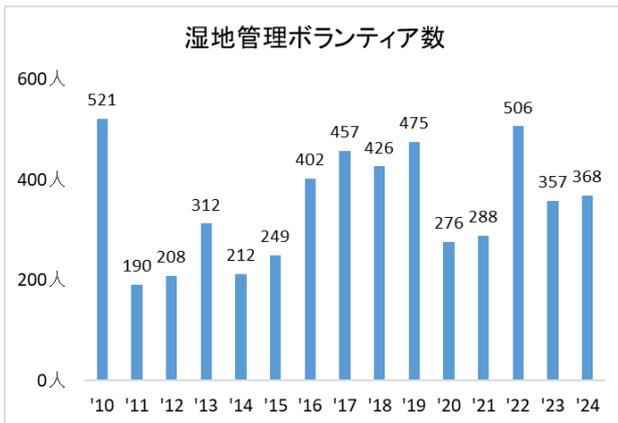
- ・市内の各所(29カ所)に人工巣塔が設置されているが、個体数が増えてきたことにより、人工巣塔以外(電柱)への営巣行為が起きているため巣材の撤去事例が増えています。

(2) コウノトリも生息できる環境の整備



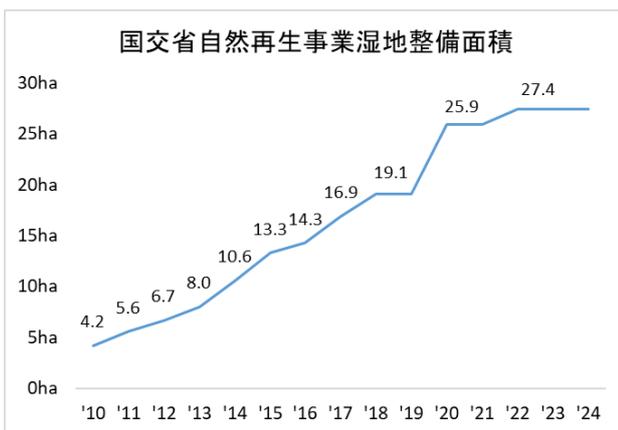
- ・小グループで身近な自然を再生する「小さな自然再生活動(ビオトープづくり、外来生物の除去など)」を支援しています。

- ・2019年度から、補助上限額が10万円から5万円に変更になりました。



- ・戸島、田結、加陽などの湿地では、市内外からのボランティアを受け入れ、湿地づくりや外来種駆除などの保全・管理作業を進めています。

- ・2024年度の内訳は、加陽湿地1回51人(企業)、田結湿地5回163人(学生)、戸島湿地9回154人(学生、企業、ボランティアツアー)



- ・豊岡河川国道事務所(国土交通省)は、円山川水系河川整備事業の一環として、湿地の整備を行っています。

- ・2020年度に正確な湿地整備面積が算出されたことにより、面積が大きく増加しています。

豊岡河川国道事務所自然再生事業湿地整備等位置図



※国土交通省豊岡河川国道事務所「円山川水系河川整備計画(国管理区間)の概要」

https://www.kkr.mlit.go.jp/toyooka/maruyamagawa/pdf/38_KASENSEIBI_KEIKAKU_GAIYOU.pdfから抜粋

※現在整備事業中の箇所も含まれます。

『豊岡市外来種対策行動計画』を策定しました

コウノトリを含む豊かな生物多様性を今後も維持していくため、市内における外来種の防除等の対策を推進・強化する「豊岡市外来種対策行動計画」（2025年2月）を策定しました。

※「豊岡市外来種対策行動計画」は市ホームページに掲載→



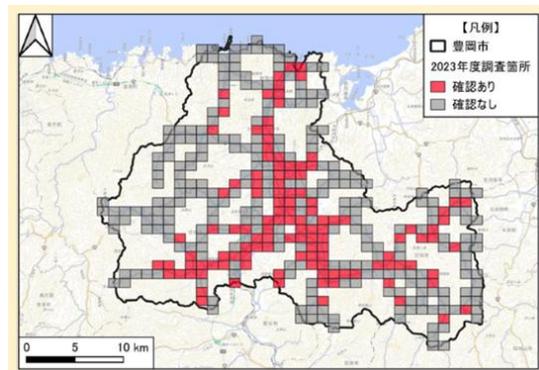
（現状）

豊岡市では、2023年度の調査により251種の外来種が確認されており、繁殖力が強く生態系への影響が大きい特定外来生物は16種確認されています。

（概要）

- 1 外来種に対する普及啓発の強化
市広報やホームページへの掲載、ポスター掲示、外来種勉強会の開催、活動報告機会の創出など
- 2 協働による外来種駆除活動
オオキンケイギクを対象としたクリーン作戦にあわせた駆除の推進、秋季の芽生え時期の駆除を進めるワークショップの開催、駆除関連費用の補助、駆除後の処分協力 など
- 3 エリアを定めた外来種対策
生物多様性に富むラムサール条約登録エリア等での外来種モニタリング調査
分布が限定的な特定外来種の根絶に向けた駆除など

（参考）市内における外来種の分布の一例～オオキンケイギク～



2023年度に行った調査では、市内の国道・県道総延長278.1km中14.5kmでオオキンケイギクが生育していると推定されました。オオキンケイギクが増加すると、在来の草花が追いやられ、それらを餌とする昆虫などの小動物も減少し、生物多様性の低下を招く可能性があります。

2 2024年度評価

- ▲小さな自然再生活動支援助成申請が減少している。
- 円山川自然再生事業により、湿地の改良と造成が行われ、ボランティア等による湿地保全活動が継続されている。
- 外来種駆除をより進めていくため「外来種対策行動計画」を策定した。

この調子で
がんばろう

目標像⑥

様々な世代の人々が、地域の祭りや行事を楽しみ、未来へとつなげています

【主な取組みの方向】

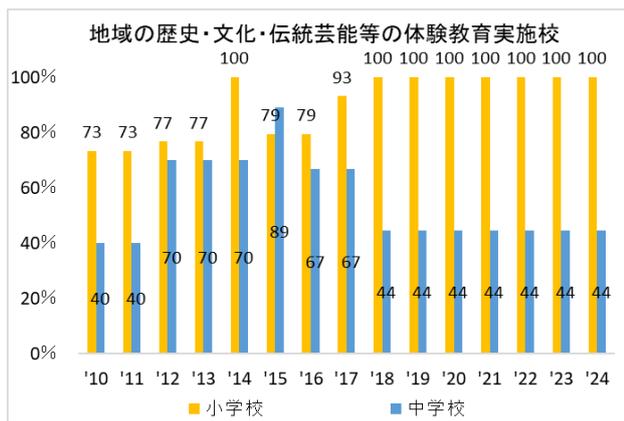
(7) (8) (9)

【具体イメージ】

地域の祭りや伝統行事のことを、おじいちゃんやおばあちゃんが孫に語りかけています／子どもたちが地域の祭りに参加して楽しんでいます／地域の誰もが、地域の文化や歴史に関心を持ち、誇りに感じています

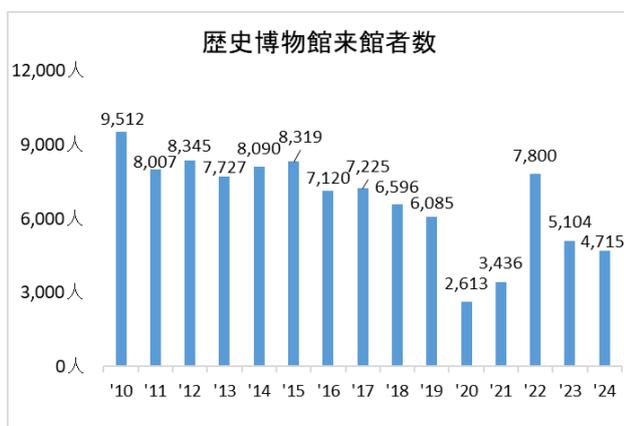
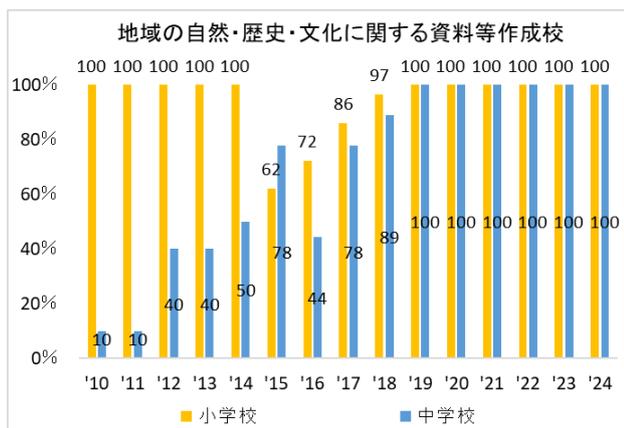
I 主な指標の変化(2010~2024年度)

(1) 地域を学ぶ機会



・学校教育の中では、“地域を知る”という視点を意識して地域の「歴史・文化・伝統芸能」の体験教育に取り組んでいます。

※統廃合により市内の小中学校数は、減少しています。(小学校:~2012年度30校、2013~20年度29校、2021年度27校、2022年度25校、2023年度23校、2024年度22校/中学校:~2014年度 10校、2015年度~9校)



・2019年4月26日にリニューアルオープンしました(改装工事のため、2月20日~4月25日まで休館)。

・2022年度は特別展の盛況もあり、大幅に増えました。

・歴史博物館「但馬国府・国分寺館」では、公開講座を実施しています。

※2023年度から「市民学芸員養成講座」も同じ趣旨として加算。

年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
公開講座	14件	11件	19件	18件
参加人数	220人	174人	358人	407人

(2) 豊岡市の無形民俗文化財

第3部「豊岡市の環境の状況」(P52) 参照

○地域コミュニティ

地域コミュニティづくりは、若者から高齢者まで、男性も女性も、多様な住民が参画しながら地域の未来を見据えて住民自治を進める取り組みです。地域コミュニティ組織では、自ら「地域づくり」や「課題解決」を行っています。

<地域コミュニティの行事事例>

各コミュニティでは、地域の歴史・文化等に関する行事や広い世代の交流行事が行われています。

桜・清流の郷きよたき

「清滝の100年桜」の樹勢回復活動を通じた地域の顔見知り事業

桜・清流の郷きよたきでは、地域のシンボル100年桜の樹勢回復活動を通じた世代を超えた交流事業を行いました。

清滝小学校4年生の総合学習で小学校の桜の歴史と生態を学び、桜の会会員に測定方法を学び一緒に幹回りの計測を行いました。また、桜の会会員をはじめとした地域住民が多数参加し、樹勢の回復・維持を目的とした維持作業を行いました。



清滝の100年桜への愛着と成長を見守る気持ちの醸成に寄与でき、桜の開花時だけでなく年間を通じた樹勢回復・管理の重要性の周知を行いました。

今後、児童や地域住民等の異世代参画による樹勢回復・管理を行い、「清滝さくらまつり」の継続開催で地域住民の集える機会を提供し、地域活性化を図って行っています。

夢コミュニティ小坂 「農がつなぐコミュニケーションプロジェクト」

夢コミュニティ小坂では、地域づくり計画の策定に向けたワークショップを開催し、福祉・農業・防災の困りごとや取り組んだらいいことを考え共有し、取り組みのアイデアを出し合いました。

農業では、地区内に専業・兼業農家約98軒あるが、担い手の高齢化や人材不足により、耕作放棄地の増加が懸念されている。より多くの住民が「農」に携わることができる仕組みを農家の方と一緒に構築し、「農」の門戸を広げるとともに、より専門的に農業に携わる人材の増加を目指していくため「農がつなぐコミュニケーションプロジェクト」を展開しています。

(実施事業)

草刈りイベント (草刈ダイエット、草刈機メンテナンス会)

農業勉強会 (農地計画勉強会、「daywork」などマッチングアプリ勉強会、農業勉強会)

田んぼイベントの実施 (田植え交流会、もちつき大会)



烏丸ストロークロック×但東の人々 『但東さいさい』

但東の子どもたちや地域住民とともに但東に点在する神社の境内にある農村歌舞伎舞台を活用して、但東の民話をもとにしたオリジナル神楽「但東さいさい」を創作し上演しています。

2022年から但東の農村歌舞伎舞台を巡って上演しており、境内に立ち並ぶ露店や拍手喝采に湧くお祭りさながらの風景が広がります。



©トモカネアヤカ

2 2024年度評価

- 各地域コミュニティで特色のある活動が行われている。
- 地域の自然・歴史・文化に関する資料等を作成し、地域を学ぶことが子どもたちに浸透している。
- ▲少子化、高齢化の進行により、伝統行事の継続が難しくなっている。

この調子で
がんばろう

目標像⑦

子どもたちが、身近な地域の自然についてよく知り、大切にしています

【主な取組みの方向】

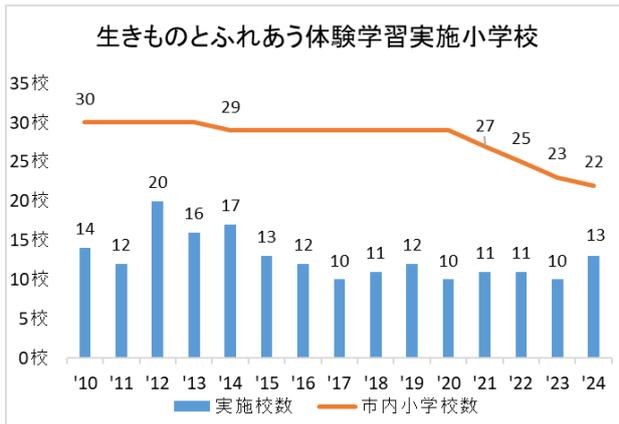
(1) (2) (3) (4) (5)
(8) (9) (10) (14)

【具体イメージ】

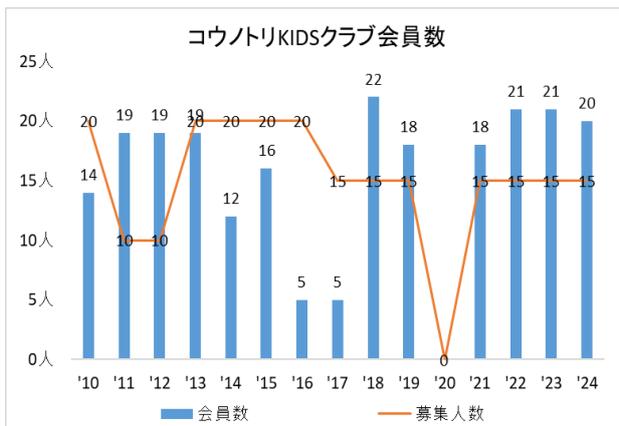
地域の環境をよくする取組みが広がり、自然が豊かになっています／自然のことをたくさん学んだ子どもたちがよく外遊びをしています／子どもたちを地域の人が見守っています

I 主な指標の変化(2010～2024年度)

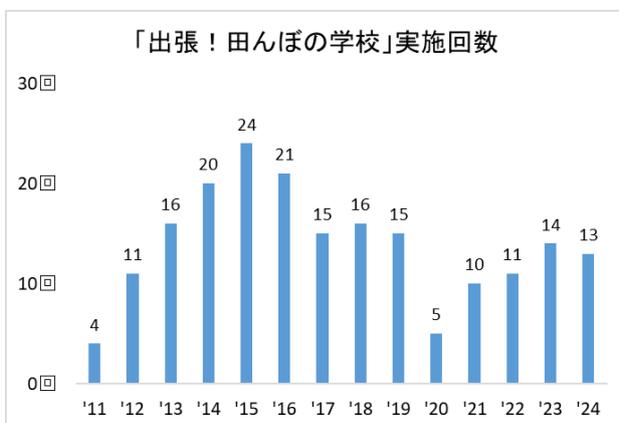
(1) 自然を学ぶ機会



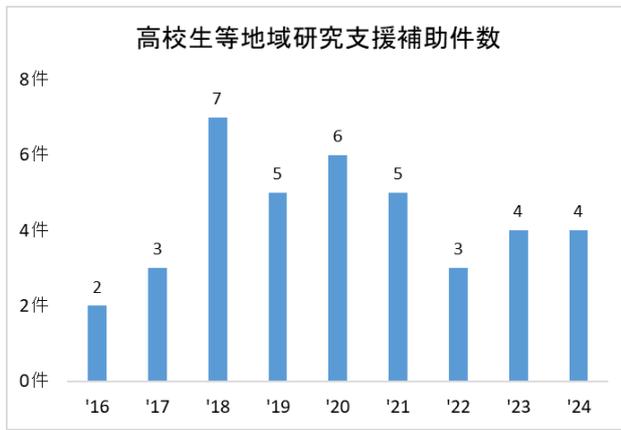
- ・小学校の生きもの調査のなかで、市が指導を担当した数です。独自に実施している学校もあります。
- ・2024年度の実施校は、2023年度より3校増えました。
- ※統廃合により市内の小学校数は、減少しています。(～2012年度30校、2013～20年度29校、2021年度27校、2022年度25校、2023年度23校、2024年度22校)



- ・コウノトリKIDSクラブは、コウノトリとその生息を支える自然を深く学ぶ、豊岡市主催の活動です。(対象：市内小学4～6年生)
- ・毎年、募集人数を上回る応募があり、子どもたちが身近な自然に関心を持っていることがうかがえます。
- ・2024年度は、外来種や市の脱炭素の取組み、里山の竹を活用した皿、コップづくりを行い、生物多様性と脱炭素の取組みについて学びました。



- ・「出張！田んぼの学校」では、NPO法人コウノトリ市民研究所のスタッフが、各地域の主催で行われる生きもの調査に講師として出向きます。
- ・2024年度は、地域コミュニティや子ども会、地域の団体などが田んぼやビオトープ、水路・川で生きもの調査を行いました。



- ・高等学校、高等専修学校の生徒が行うふるさと豊岡の誇りであるコウノトリ等に関連する研究や調査、活動等を支援しています。
- ・ふるさとの知見を深め、将来に渡って豊岡とつながりを持ち、取組みに参加する若者を増やすことが目的です。

《2024年度の研究》

申請者	研究タイトル	内容
クラーク記念国際高等学校豊岡キャンパス	豊岡のコウノトリについて学ぶ	ハチゴロウの戸島湿地で講話や、湿地の草刈りによる学習を行った。
出石特別支援学校	高等部「コウノトリはばたけ学習」	コウノトリの郷公園の見学や人工巣塔の観察、足環つけ作業の見学、コウノトリ育むお米で作られた米粉を用いた調理実習などを行った。学習の様子等をまとめた「たより」を地域に配布し、地域に生徒たちの活動の周知を行った。
出石高等学校	コウノトリとふるさと豊岡の自然環境を学ぶ	コウノトリ野生復帰の意義や目的、有害鳥獣に関する講話や、山陰海岸でのジオカヌー体験により、豊岡の自然環境等の学習を行った。
大岡学園高等専修学校	戸牧川の生態調査及び周辺河川の生態調査	戸牧川と袴狭川の各河川の生態調査及び2年前の各河川の生態調査との比較を行った。

(2) 学べる地域環境

環境学習フィールドとしても活用できるよう、ビオトープ水田の設置を進めています。

《市内各小学校区のビオトープ水田面積》

(単位: a)

地域	小学校	面積	地域	小学校	面積	地域	小学校	面積
豊岡	豊岡	0.0	城崎	城崎	0.0	出石	弘道	7.5
	八条	74.9 (-29.0)		竹野	竹野		16.8	福住
	田鶴野	9.0 (-38.7)	日高	府中	74.9		小坂	0.0
	三江	62.3		八代	10.8		小野	69.2
	五荘	253.1 (+17.9)		日高	41.0	但東	合橋	215.2
	新田	0.0		三方	20.2 (-83.0)		資母	22.1
	中筋	17.2		清滝	19.1			
	港	5.2						
	神美	159.6						

※合計面積の推移はPI7に掲載。数値下の()は前年度との比較数値

※コウノトリ生息地保全対策事業におけるビオトープ設置分のみ記載

※2024年度より寺坂小校区分は福住小校区へ統合

佐渡・豊岡の児童による交流体験学習の開催

2025年の大阪・関西万博開催に向けて兵庫県が進めている新潟県との連携事業の一環として、7月30日、豊岡市立田鶴野小学校の5年生児童19名が新潟県佐渡市を訪れ、トキの野生復帰に取り組む新潟県佐渡市の行谷小学校と交流会を行いました。

両校の5年生児童は、トキとコウノトリの野生復帰や、環境に配慮した農業などについて互いに発表し、交流を深めました。

このほか、田鶴野小学校の児童は、行谷小学校5年生児童のガイドによるトキの森公園の見学や、自然栽培が行われている田んぼでの生きもの調査を通じて、佐渡の生物多様性や豊かな環境について学びました。



2 2024年度評価

- コウノトリ KIDS クラブに募集人数以上の応募がある。
- 高校生等地域研究支援補助の研究内容から、人と自然の共生を学ぶ高校の研究活動が定着している。
- 他地域との交流で子どもたちが身近な自然のことを学び伝える機会が増えている。



目標像⑧

市民みんなが、ごみの減量化を実践し、1人あたりの排出量が徐々に減っています

【主な取組みの方向】

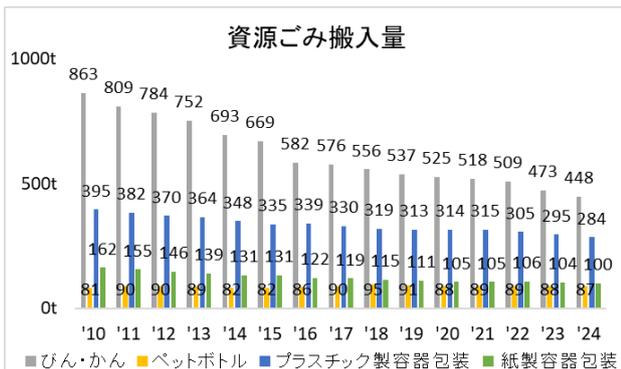
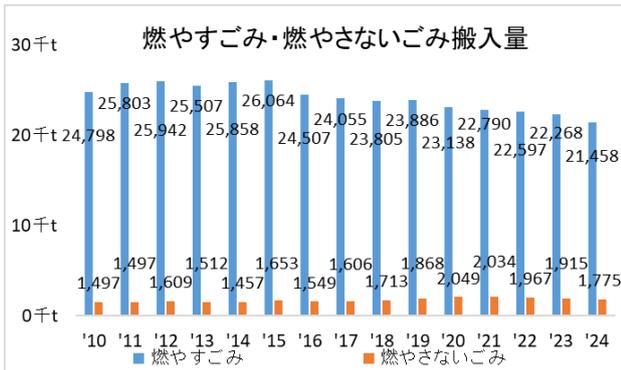
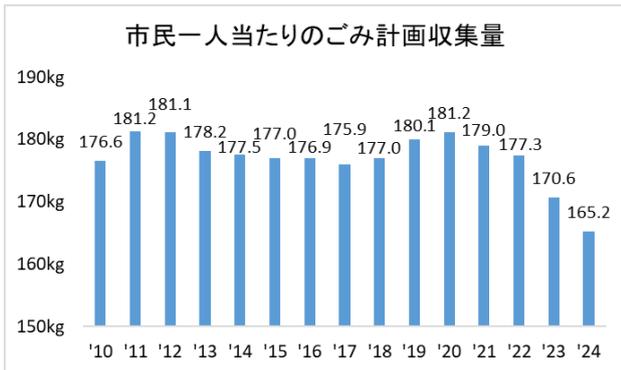
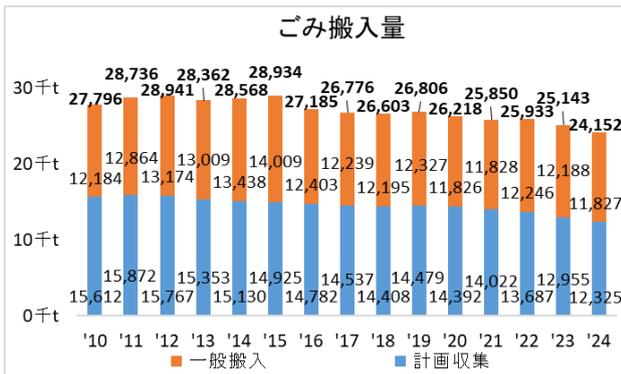
(2) (6) (9) (11) (12)

【具体イメージ】

資源ごみ回収ステーションが増えています／みんなが無駄遣いを減らし、分別を徹底することでごみの量が減少しています／生ごみは堆肥などに、廃食用油は燃料として利用され、資源やエネルギーの地域内循環が進んでいます／事業者は、ゼロエミッションの取組みを進めています

I 主な指標の変化(2010~2024年度)

(1) ごみの量



《豊岡市人口(各年度末値)》

年度	人口	世帯
2010	88,407人	32,313世帯
2015	84,337人	32,869世帯
2020	79,446人	33,421世帯
2021	78,348人	33,546世帯
2022	77,180人	33,635世帯
2023	75,919人	33,733世帯
2024	74,604人	33,722世帯

・ごみの分類ごとの搬入量は、計画収集と一般搬入を合わせたものです。

・2016年4月から一部のごみの分別区分が下記の通り変わりました。

①燃やすごみで指定袋に入らないものは粗大ごみ

②燃やさないごみは、燃やさないごみ・蛍光管・乾電池類・粗大ごみの4分類

③1辺20cm以上の缶は燃やさないごみ

④プラスチック製品(プラ製容器包装を除く)は、硬さに関わらず全て燃やすごみ

・2022年3月、プラスチックごみの排出抑制に取組み、生態系に与える影響を防ぐとともに、循環型社会の構築と脱炭素社会の実現を目指すため「豊岡市プラスチックごみ削減対策実行計画」を策定しました。

<取り組む行動一覧>

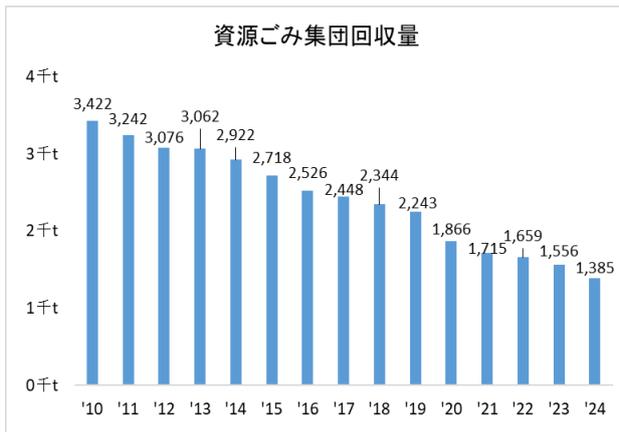
- ・外出時のマイバッグ、マイボトル持参
- ・会議時のペットボトル飲料の提供取りやめ
- ・使い捨てプラスチック製品の要否確認、受け取り拒否 など

※計画は市ホームページに掲載

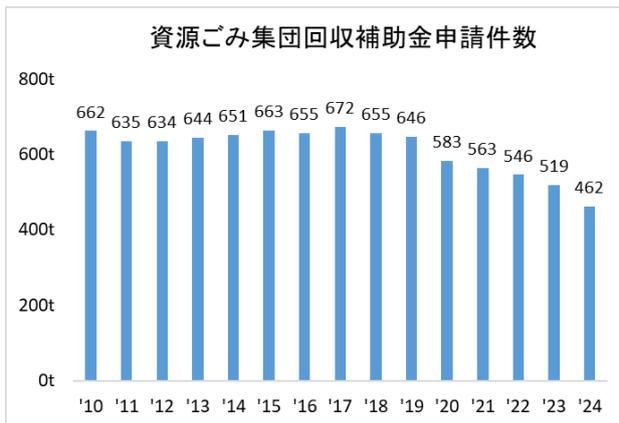


(2) 資源ごみの回収

全ての小・中学校で、資源ごみ回収(廃品回収)やリサイクル活動が行われています。

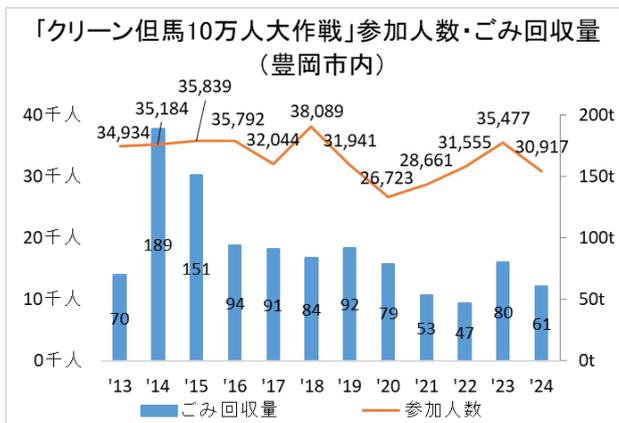


- ・豊岡市の住民で構成される自治会、子供会、老人会、PTA等の営利を目的としない団体を対象に、資源ごみ集団回収事業補助金を交付しています。
- ・スーパーマーケット等の施設でも、資源ごみが回収されています。
- ・2013年度以降、集団回収量は減少し続けています。

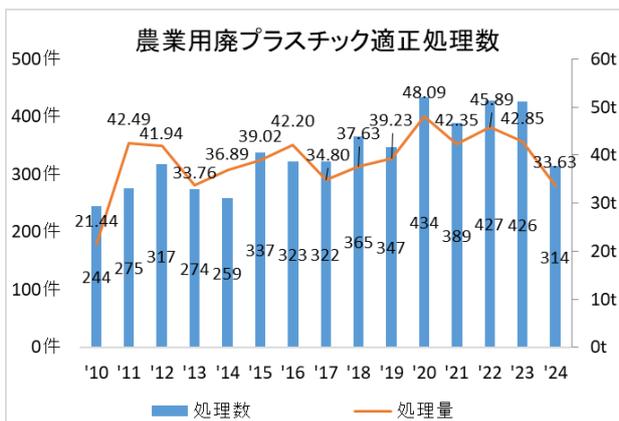


- ・資源ごみ集団回収量や補助金申請件数は、減少の傾向にあります。
- ・同じ団体が複数の活動を申請していることもあります。

(3) ごみ回収の取組み



- ・1990年から、毎年6月の第一日曜日を実施基準日として定め、住民が参加する清掃・美化活動「クリーン但馬10万人大作戦」を実施しています。
- ・地域住民がよりいっそうクリーンなまちづくりについて意識を高め、但馬を美しく住み心地の良い地域とすることを目指します。
- ・ごみ回収量は、「燃やすごみ」「燃やさないごみ」のみで、水路の泥上げ作業で出た「土のう」は除いています。



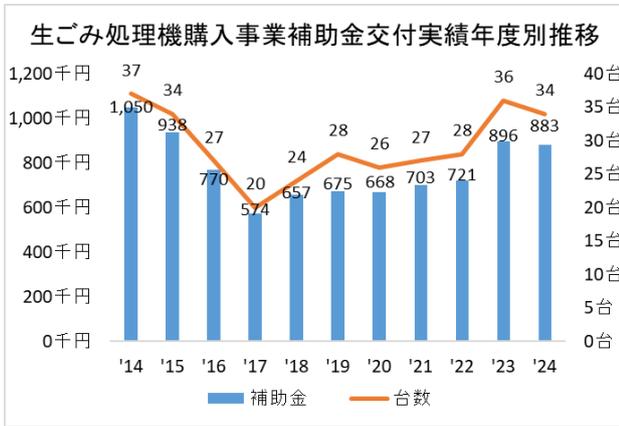
- ・ビニールハウス等の農業用廃プラスチックは、年に一度持ち寄って集団処理が行われています。
- ・最終処分を担っている業者では、資源化(サーマルリサイクル、マテリアルリサイクル)処分しています。

【サーマルリサイクル】

焼却の際に発生する熱エネルギーを回収・利用

【マテリアルリサイクル】

原料として再生利用



- ・「生ごみ処理機購入事業補助金」に関する市民の関心は高く、募集早々に予算枠が埋まる状態です。
- ・2023年度から予算を増額し、市民のニーズに即した生ごみの減量化を進めています。
- ※生ごみの水分は焼却処理の燃焼温度を低下させます。生ごみ処理機による生ごみの乾燥化と減量化は、効率的な焼却に繋がります。

電気式生ごみ処理機購入費補助金

目的：家庭から排出されるごみの堆肥化、減量・再資源化の促進のため
 対象者：市内在住の方で、5年以内にこの制度による補助を受けていない方（1世帯につき1基）
 補助金額：購入価格の2分の1（上限3万円）
 ※購入前に事前申し込みが必要

Topics

クリーンパーク北但 ペットボトルの水平リサイクルに関する協定を締結

北但行政事務組合は、サントリーグループ・豊田通商・大栄環境と、2024年2月28日に「ペットボトルの水平リサイクルに関する協定」を締結しました。

これまで、北但行政事務組合（クリーンパーク北但）に集められたペットボトルは再生用途が指定できず、「繊維」や「フィルム・シート」などにリサイクルされていた場合、最終的に焼却処分されていましたが、締結したペットボトルの水平リサイクル（ボトルtoボトル）に関する協定により、クリーンパーク北但に集められたペットボトルは、再度ペットボトルへ再生され、半永久的にリサイクルすることが可能になりました。

水平リサイクルを取り組むことにより、化石由来原料から新たにペットボトルを製造する場合に比べ、CO₂を約60%削減することができ、関西圏内の工場等で完結するためペットボトル輸送時のCO₂の抑制にも繋がります。

また、リサイクル先を「見える化」することで、住民のリサイクル意識のさらなる向上に繋がることが期待できます。



2 2024年度評価

- 市民一人あたりのごみ計画収集量が2021年以降減少している。
- 生ごみ処理機購入事業補助金に関する関心も高く、生ごみの減量化に対する意識も高まりつつある。
- ▲毎年実施している「クリーン但馬10万人大作戦」の参加人数が減少している。



目標像⑨

市民みんなが、楽しみながら省エネ行動を実践し、再生可能エネルギーの利用も増えています

【主な取組みの方向】

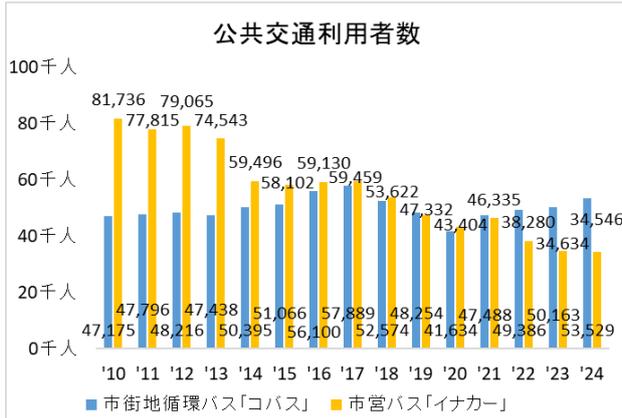
(6) (9) (12)

【具体イメージ】

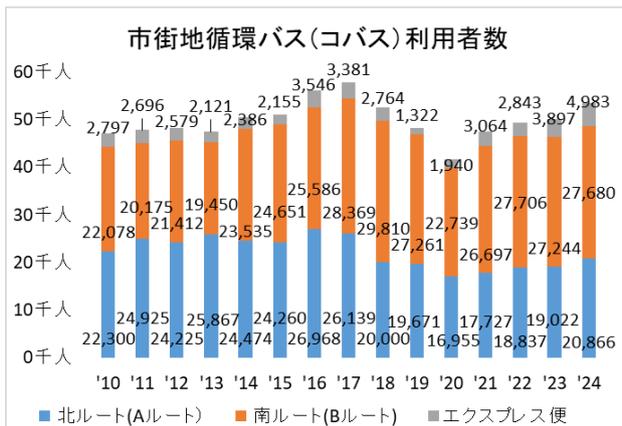
地球温暖化防止の意識が高まり、化石燃料の使用を減らす行動が広がっています／大人も子どもも省エネルギー行動が当たり前になっています／太陽光発電パネルの設置や電気自動車の導入、エコドライブの実践が進んでいます

I 主な指標の変化(2010~2024年度)

(1) 公共交通の利用



・公共交通機関を利用することで、各乗用車での化石燃料使用が減り、一人あたりの二酸化炭素(CO₂)排出量も減らすことができます。



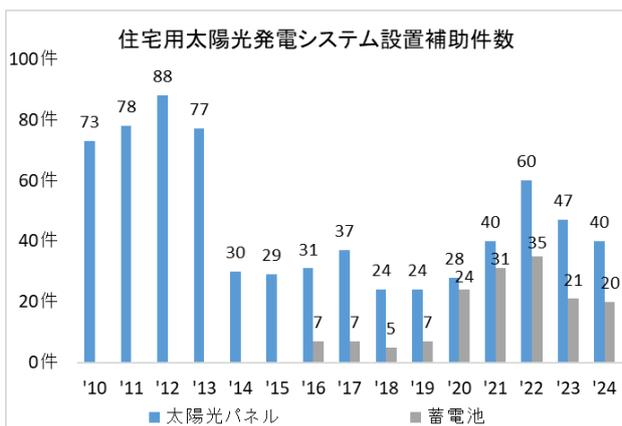
・2018年度、コバスの走行ルートが、Aルート・Bルートから北ルート・南ルートに変更されました。

・ルート変更に伴い、5カ所のバス停を休止し、3カ所のバス停を新設。各ルートの乗継停留所を豊岡駅とアイティ前に集約しました。

・ノーマイカーデー参加者数は第4部P60に記載しています。

(2) 太陽光発電

太陽光発電は、発電時に化石燃料を使用せず、二酸化炭素(CO₂)も発生しないため、環境への負担が少ない電力です。生物多様性や景観への影響に対して、適切に配慮しながら導入していくことが求められます。豊岡市の施設への太陽光発電システムの設置は1999年度から行っています。各地域の庁舎や小・中学校、コミュニティセンター等に設置されています。



・2002年度から住宅用太陽光発電システム設置補助制度が始まり、2016年度から、蓄電池も補助対象となりました。

・太陽光パネルと一緒に蓄電池をつける場合も後から蓄電池だけをつける場合も対象です。

・2021年度から、事業者用太陽光発電システム設置補助制度が始まりました。



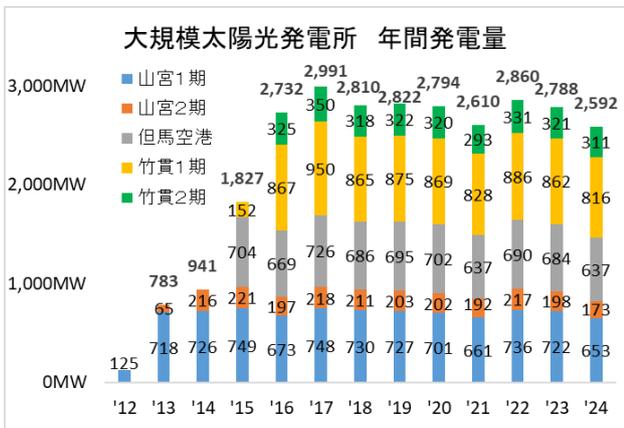
《事業者用太陽光発電システム設置補助》

年度	設置事業者数	年間総設置量
2021	2者	25.1kW
2022	4者	53.6kW
2023	4者	97.0kW
2024	9者	282.2kW

《豊岡市所有大規模太陽光発電所》

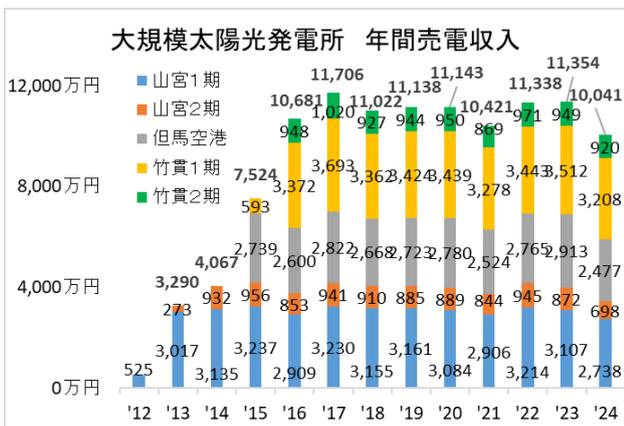
施設名	稼働開始(年度)	最大出力(kW)	発電量(MW)	CO ₂ 削減量(t-CO ₂)
豊岡エコバレー山宮地場ソーラー第1期	2012	681.0	653.40	273.77
豊岡エコバレー山宮地場ソーラー第2期	2013	318.8	173.17	72.55
コウノトリ但馬空港地場ソーラー	2013	677.6	637.49	267.11
豊岡エコバレー竹貫地場ソーラー第1期	2015	823.2	816.39	342.07
豊岡エコバレー竹貫地場ソーラー第2期	2015	299.9	311.05	130.33

※CO₂削減量は環境省・経済産業省が公表している「電気事業者別排出係数」を基に算出

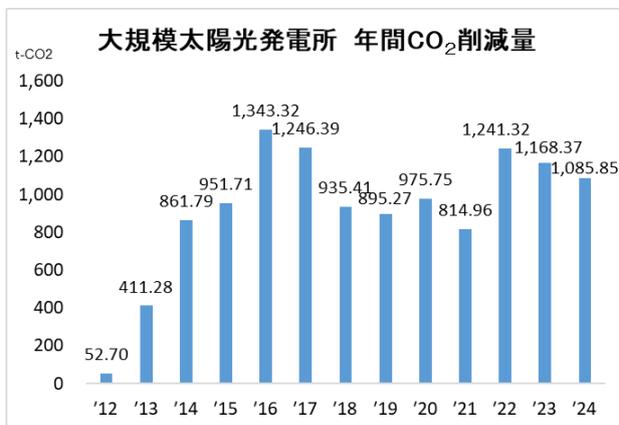


・各大規模太陽光発電所は、固定価格買取制度（FIT制度）で20年間売電します。固定価格買取制度終了以降の発電については、公共施設等での電力活用を検討しています。

※2024年度から、電力の需給バランスを調整するための出力制御（発電停止指示）が関西エリアで頻発したため、年間発電量と年間売電収入が減少しています。



・大規模太陽光発電所で発電した電力の売電収入は、設備の維持管理費の他に、太陽光発電システム導入補助、木質バイオマス利用機器設置補助の費用等に充てています。



- ・CO₂削減量は、【発電量×調整後排出係数（環境省が毎年公表）】の計算式で算出しています。
- ・調整後排出係数は関西電力の数値を使用しています。

Topics

日高神鍋観光協会×ハチドリ電力 地域共同基金「1% for Local」を発足！

日高神鍋観光協会は、CO₂排出ゼロの自然エネルギー100%の電気を供給する電気事業者であるハチドリ電力と2024年12月4日にパートナーシップを締結し、「地域共同基金1% for Local」を発足しました。

「地域共同基金1% for Local」とは、ハチドリ電力の契約者が支払う電気代の1%を共同基金に積み立て、地域を良くするための活動財源にするという、日本で初めてとなる地域共助のプロジェクトです。ハチドリ電力の電気を利用する市民や企業が増え、CO₂の削減が進めば進むほど、地域のために使える財源が増え、地域が良くなっていくという好循環を形成します。

地域共同基金は、観光のためだけではなく、豊かな自然や文化、暮らしなどを未来につなぐために活用する「地域共有の資産」です。その用途は、地域の方々と協議しながら決めていきます。自然エネルギーの利用が進み、地域がより豊かになり、いつまでも雪が残り続ける未来に向けて、「地域共同基金1% for Local」の活動の輪を広げていきます。



<ハチドリ電力>

[支援団体を選ぶ | 電気で応援するハチドリ電力](#)



2 2024年度評価

- 住宅用・事業用太陽光発電設備の設置が広がっている。
- 日高・神鍋エリアなど市民や事業者の中に脱炭素の意識が高まっている。

この調子で
がんばろう

目標像⑩

環境をよくすることで経済が活性化され、交流も広がっています

【主な取組みの方向】

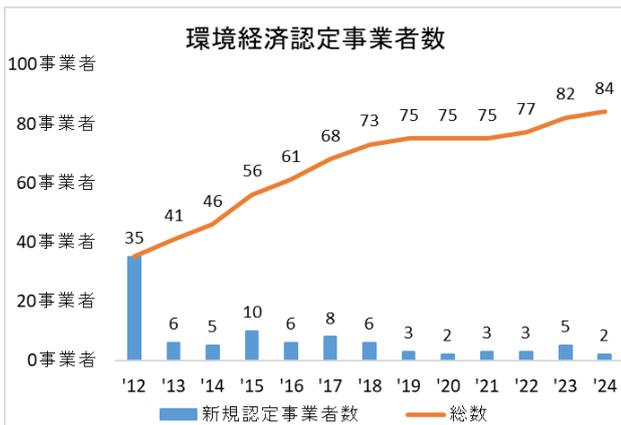
(1) (2) (3) (4) (5)
(9) (10) (13) (14)

【具体イメージ】

「環境と経済の共鳴」の環境経済戦略がさらに進み、豊岡の知名度が上がっています／人・もの・情報が広域的に行き交う取組みが進んでいます／新たに受け入れた産業や企業、知や技の交流を通じて、豊岡のまちが元気になっています

I 主な指標の変化(2010~2024年度)

(1) 環境経済認定事業



・市内の企業で、「環境と経済が共鳴するまち」（環境と経済が互いを刺激しながら発展する仕組み）の実現を目指して、「環境経済事業」（環境を良くする事業活動で利益が生まれるもの）の認定を行っています。

・認定事業の実績について、毎年報告が義務付けられており、認定事業が実施されなくなった場合、認定は取り下げられます。(取り下げ件数：10件)

《認定事業者業種別数（2024年度）》

業種	事業者数
農林業	5
建設業	18
製造業	31
卸小売業	14
学術研究、専門・技術サービス業	2
宿泊業、飲食サービス業	5
医療福祉	1
サービス業（他に分類されないもの）	8
計	84

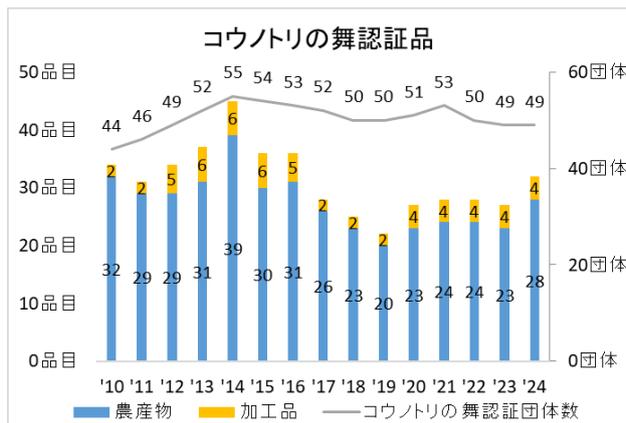
※日本標準産業分類

《2024年度新規認定事業者》

事業者名	認定事業名	事業内容
有限会社三世商事 (日高町)	広葉樹チップ、おが粉製造	森林環境の保全、市内資源の活用 森林の整備(間伐)や支障木・倒木処理で発生した木材から、ウッドチップ、おが粉を製造。製品は、しいたけ等の菌床をはじめ、家庭菜園やガーデニングなど、多用途に使用可能。適切に森林の整備を行い再生を促しながら、その資源の有効活用を実現している。

<p>志ん屋（日高町）</p>	<p>神鍋高原の自然の中で、環境に優しく学べ、体験できる宿事業</p>	<p>森林環境の保全、気候変動対策 森林整備で得られた間伐材を燃料とする薪ストーブの導入や、竹製アメニティの採用など、施設の環境負荷の軽減に取り組んでいる。 あわせて、薪ストーブを使ったサウナ体験や、環境学習における講話・間伐材の薪割り体験など、森林の保全・活用体験等のメニューを提供し、宿全体でサステナビリティを推進。</p>
-----------------	-------------------------------------	--

(2) コウノトリの舞



・2024年度の登録品目（32品目）

米（うるち、酒、もち）、オクラ、かぶ、キャベツ、キュウリ、コマツナ、さやいんげん、シュンギク、ショウガ、スイカ、メロン、チンゲンサイ、トマト、ミニトマト、ナス、ニンジン、ネギ、バレイショ、ピーマン、ハウレンソウ、水菜、レタス、大豆（白大豆、黒大豆）、黒大豆枝豆、小麦、そば、だいこん、ぶどう、ブルーベリージャム、ブルーベリーソース、生姜シロップ、生姜しぼり汁

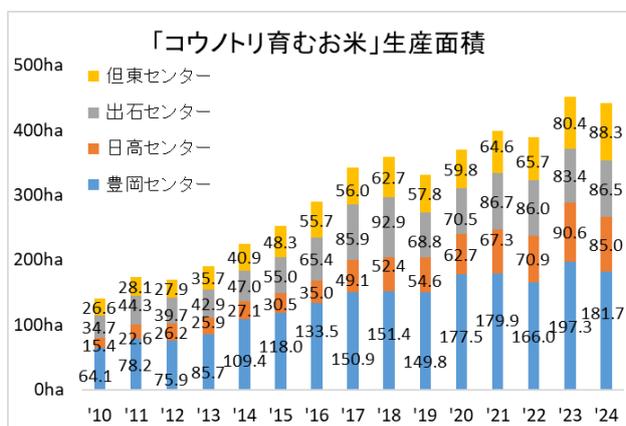
「コウノトリの舞（農産物認定制度）」

2003年度創設の「水稻・野菜」を対象とした農産物認定制度。

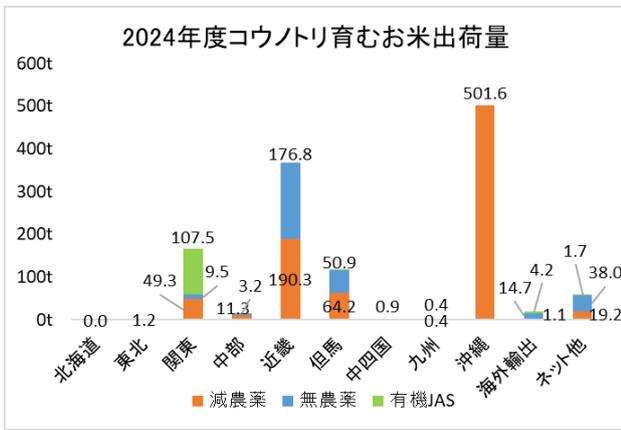
豊岡市内で生産された農産物に対する信頼を高め、消費の拡大を促し、農業の安定的かつ長期的な振興を図るとともに、安全・安心な農産物とコウノトリの餌となる生きものを育む「環境創造型農業」の普及拡大を目指す。

環境に配慮した栽培技術の導入により、安全・安心な農産物および農産加工品を生産する団体を「コウノトリの舞」農産物等生産団体として認定し、認定団体が生産する農産物等には認定ロゴマークを貼付して出荷する。

(3) コウノトリ育むお米



・JAたじま営農生活センターごとのデータです。
 ・豊岡市の水田面積の約1割がコウノトリ育むお米の水田になっています。

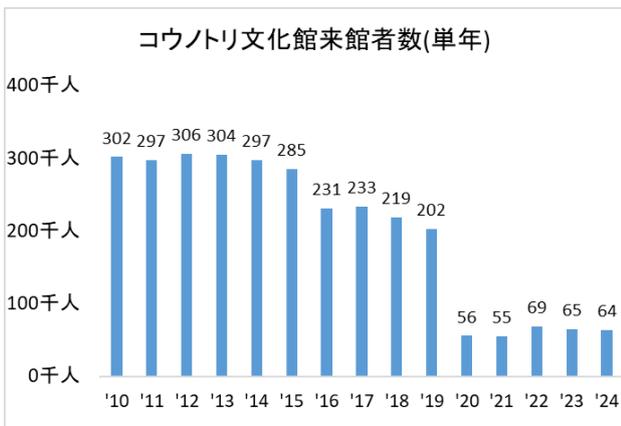


・2024年度のコウノトリ育むお米の出荷量約1,246tのうち、約20tが海外に輸出されています。
 (2023年度出荷量約1,044t、海外輸出約16t)
 ・消費者の食の安全志向の高まりに加え、コウノトリ野生復帰の物語が反響を呼び、約94%が国内で消費されており、沖縄県、関東及び関西の都市圏で消費されています。

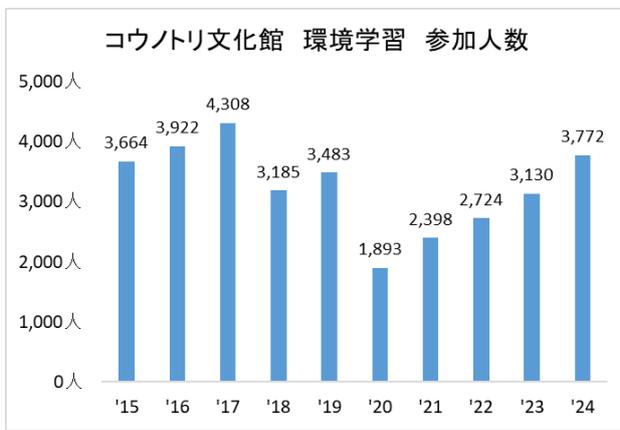
《コウノトリ育むお米の海外への輸出状況》

年度	輸出国・地域(国・地域数)	輸出力
2016	アメリカ、シンガポール (2)	1.50t
2017	アメリカ、シンガポール、香港 (3)	7.80t
2018	アメリカ、シンガポール、香港、オーストラリア、ドバイ首長国 (5)	17.16t
2019	アメリカ、シンガポール、香港、オーストラリア、ドバイ首長国、台湾 (6)	17.27t
2020	アメリカ、シンガポール、香港、オーストラリア、ドバイ首長国、台湾、スイス、フランス (8)	22.23t
2021	アメリカ、シンガポール、香港、オーストラリア、ドバイ首長国、スイス、スウェーデン、オランダ (8)	18.60t
2022	アメリカ、シンガポール、香港、オーストラリア、ドバイ首長国、スイス、オランダ (7)	20.60t
2023	アメリカ、シンガポール、香港、オーストラリア、ドバイ首長国、スイス、オランダ、イギリス (8)	16.38t
2024	アメリカ、シンガポール、香港、オーストラリア、ドバイ首長国、スイス、オランダ (7)	20.61t

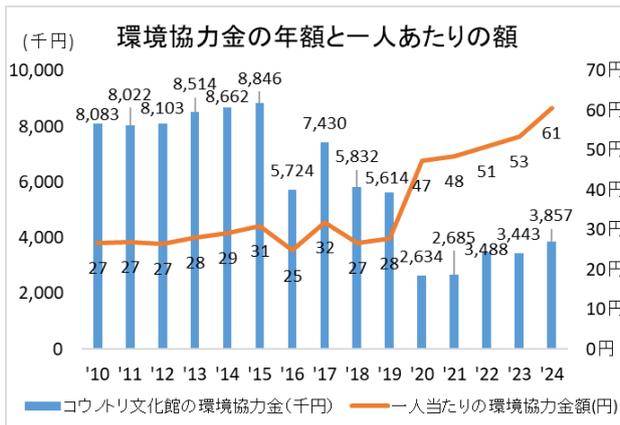
(4) 人・もの・情報の交流



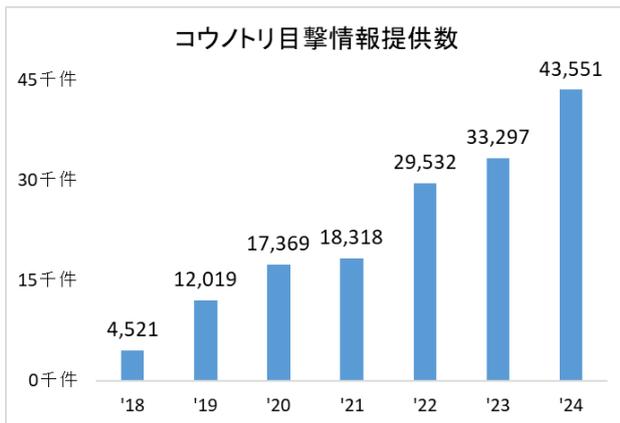
・現在、観光形態の変化などでツアー等の団体客が減少しています。



・視察や環境学習の参加者は、2023年度より642人増加しています。



・2020年以降、コウノトリ文化館来館者一人あたりの環境協力金の金額は増加しています。



・市民参加によるコウノトリのモニタリング「コウノトリ市民科学」には、全国からコウノトリの目撃情報が提供され、市民間で情報交換がされています。

・新たな飛来地や営巣地が加わったことや登録者が増加したことにより目撃情報が増えています。

【出典:コウノトリ市民科学】

<宿泊を伴う市外からのボランティア活動による交流・地域活性>

市外の企業や団体、学校が環境保全活動ボランティアの際に、宿泊や観光も行うことで、地域の活性化に繋がります。ボランティアでは、湿地の乾燥化を防ぐために池を作ったり、草刈りや水路を広げる保全作業、外来種駆除等を行っています。

2022年度からは旅行会社により、ボランティア体験がツアー内容に含まれたボランティアツアー（年間複数件 催行）が企画されるようになりました。

戸島湿地では、2022年度から始まったJAと神姫バスの共同による、阪神間から湿地ボランティア作業（主に草刈り）をメインとしたツアーが継続して行われており、2024年度は計3回、23名の参加がありました。

《宿泊を伴う市外からのボランティア件数》

年度	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
件数	3件	3件	5件	6件	4件	5件	1件	3件	4団体	2団体	2団体

神鍋高原で限界チャレンジ！ サステナブルを極めるモニターツアー開催

日高神鍋観光協会では、2023年1月に「神鍋高原ゆきみらい100年宣言」を行った後、「神鍋高原ゆきみらい行動計画」を策定し、「選ばれる観光地づくり(サステナブルツーリズム)」をアクションの柱の一つに決めました。

2024年10月には、サステナブルツーリズムを通じた地域振興につなげることを目的として、サステナブルな移動・宿泊・食・エネルギーを実現し、旅に関する環境負荷をゼロに近づけながらも、快適に楽しく過ごせるツアーを造成するため、モニターツアーを実施しました。

観光や気候変動、地域づくりの各分野から参加者を募り実施したツアーでは、森林整備や、eモビリティでの移動、プラントベース食*の食事、気候変動に係るレクチャーなどを体験しました。得られた意見等から、今後、ツアー商品の販売を目指しています。

*プラントベース食とは

健康や環境への配慮から、動物性由来の原材料を使用せず、植物性由来の原材料を基礎とした諸食品



2 2024年度評価

- 環境経済認定事業者総数は、近年認定の取下げがなく年々増加している。
- コウノトリの目撃情報提供数が増加しており、コウノトリへの関心が高まっている。

